



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	学校教育におけるジェンダー平等戦略 - 教育環境と教育内容に焦点をあてて - (II 児童・生徒調査)
Author(s)	直井, 道子; 福富, 護; 村松, 泰子; 大竹, 美登利; 高橋, 道子; 中澤, 智恵; 松川, 誠一; 眞鍋, 倫子; 木村, 育恵; 苫米地, 伸
Citation	
Issue Date	2007-12
URL	http://hdl.handle.net/2309/90507
Publisher	福島県男女共生センター
Rights	

児童・生徒調査

1. 児童・生徒の基本属性

今回の児童・生徒調査において使用した質問紙では、まず最初に基本的属性を尋ねた。

男女別と学年別を合わせてみると（男女別無回答 11 名、学年別無回答 1 名、計 12 名を除く）図表 -1 となる。

【図表 -1】基本属性（各地域と各学年及び性別％）

(%)

	人数	小4	小6	中2
福島市	715	37.5	29.8	32.7
会津	620	31.0	34.7	34.4
国分寺	749	32.8	35.5	31.6
相模原	608	33.7	33.2	33.1
合計	2692	33.8	33.3	32.9

	人数	女子	男子
福島市	712	49.4	50.6
会津	617	46.4	53.6
国分寺	749	49.3	50.7
相模原	607	49.3	50.7
合計	2682	48.7	51.3

		人数	小4	小6	中2
福島市	女子	352	37.2	30.7	32.1
	男子	360	37.2	29.2	33.6
	合計	712	37.2	29.9	32.9
会津	女子	286	31.8	35.3	32.9
	男子	331	30.5	34.1	35.3
	合計	617	31.1	34.7	34.2
国分寺	女子	368	31.0	37.5	31.5
	男子	378	34.4	33.6	32.0
	合計	746	32.7	35.5	31.8
相模原	女子	299	33.8	35.5	30.8
	男子	307	33.6	30.9	35.5
	合計	606	33.7	33.2	33.2

小4と中2において、男子の比率がそれぞれ51.7%、53.0%とほんのわずかではあるが多くなっているものの、全体的には、男女比（男子が51.3%、女子が48.7%）、学年比（小4が33.8%、小6が33.3%、中2が32.9%）ともに均等にわかれている。

2. 休み時間の過ごし方及びクラスの状況について

2.1. 休み時間の活動（問2）

問2と問3は、学校内での休み時間の活動についての設問である。問2では、休み時間にどのように過ごすことが多いか、あてはまる活動について尋ねた（以下、「あてはまらない」は、「あてはまる」を選択しなかったことを指す）。

「おにごっこやなわとびなどの外遊び」

この項目に関して、男女別のクロス分析を試みてみたが、統計的に有意な結果は出なかった。つまり、男女間に差異はないということになる。

そこで、学年別でのクロス集計を行ってみると（図表 -2-1）学年が上がるにしたがって、「あてはまらない」とした割合が増加する。とりわけ、小学校と中学校の間で、「あてはまらない」の割合は、小6が67.9%、中2が93.3%とその落差が大きい。

【図表 -2-1】おにごっこやなわとびなどの外遊び（学年別%）

	人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	911	66.0	34.0	***
小6	896	67.9	32.1	
中2	885	93.3	6.7	
合計	2692	75.6	24.4	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「サッカー・ドッジボールなどのボール遊び」

男女別の回答をみると、男子の55.8%が「あてはまる」と回答し、女子の80.2%が「あてはまらない」と回答している。また、学年別でのクロス集計を行うと、と同様に学年を追うにしたがって、「あてはまらない」割合が多くなり、これもまた小学校と中学校で大きく分かれている。そこで三重クロス集計を出してみると（図表 -2-2）小学校と中学校で大きく行動を変化させるのは男子であることがわかる。

【図表 -2-2】サッカー・ドッジボールなどのボール遊び（男女・学年別％）

（％）

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
女子	小4	437	74.4	25.6	**
	小6	453	82.1	17.9	
	中2	415	84.1	15.9	
	合計	1305	80.2	19.8	
男子	小4	468	36.5	63.5	***
	小6	440	33.2	66.8	
	中2	468	62.2	37.8	
	合計	1376	44.2	55.8	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「教室の中での仲間遊び」

と が、主に教室の外で行われる活動であったのに対して、以降は、主に教室内で行われ、どちらかといえば静かな活動について尋ねてみた。

教室内で仲間と遊ぶかどうかについて、男女別のクロス集計を行うと、男子は 55.3%が「あてはまらない」を、女子は 51.2%が「あてはまる」を選択しており、男女間に差異がみられる。学年別でのクロス集計においては、統計上の有意差がない（P=0.059）。

ただし、三重クロス集計を行ってみたところ（図表 -2-3）男子は学年が上がるにしたがって、「あてはまる」と回答する割合が増加し、逆に女子は「あてはまらない」と回答する割合が増加していることが明らかになった。

【図表 -2-3】教室の中での仲間遊び（男女・学年別％）

（％）

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
女子	小4	437	44.4	55.6	**
	小6	453	45.9	54.1	
	中2	415	56.6	43.4	
	合計	1305	48.8	51.2	
男子	小4	468	65.4	34.6	***
	小6	440	55.2	44.8	
	中2	468	45.1	54.9	
	合計	1376	55.2	44.8	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「友だちとおしゃべり」

この設問の回答傾向は、に類似していた。つまり、男女別では男子は 55.5%が「あてはまらない」と、女子は 72.7%が「あてはまる」と回答しており、男女間に差異がみられる。と比較してみても、女子の「あてはまる」と回答する割合が高い。また学年別でのクロス集計においても、学年を追うにしたがって、「あてはまる」と回答する割合が増加す

る。

この設問の三重クロス集計をみてみると（図表 -2-4）中2女子の実に94.9%が「あてはまる」と回答しており、中2男子の66.2%をはるかに上回っている。

【図表 -2-4】友だちとおしゃべり（男女・学年別％）

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
女子	小4	437	53.5	46.5	***
	小6	453	22.3	77.7	
	中2	415	5.1	94.9	
	合計	1305	27.3	72.7	
男子	小4	468	72.6	27.4	***
	小6	440	60.5	39.5	
	中2	468	33.8	66.2	
	合計	1376	55.5	44.5	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「ひとりで本を読んだり絵をかく」

まず男女別の「あてはまる」と回答した割合をみてみると、男子は15.3%、女子は18.3%であった。つまり男女ともに「ひとりで本を読んだり絵をかく」という児童および生徒は、2割以下ということになる。では学年別ではどうだろうか。集計結果をみてみると（図表 -2-5）学年が上がるにしたがって、「あてはまる」と回答する割合が減少している（小4が21.5%、小6が17.7%、中2が10.8%）。

【図表 -2-5】ひとりで本を読んだり絵をかく（学年別％）

	人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	911	78.5	21.5	***
小6	896	82.3	17.7	
中2	885	89.2	10.8	
合計	2692	83.2	16.8	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

問2全体を概観してみると、学年が上がるにしたがって、外遊びが少なくなり、教室での遊びや活動が増える傾向にある。ほとんどの児童・生徒が何らかの形で友だちと過ごしているということが、この分析からわかった。

2.2. 一緒に遊ぶ友達の性別（問3）

男女別によるクロス分析によると、圧倒的な遊ぶ仲間の同性志向がわかる。ただし、異性と遊ぶ子どももあり、どちらかといえば同性志向は男子の方が高い。また明確に「まざ

って遊ぶ」と答えているのは男女ともに 8%程度であり、「こともある」程度と答える男子が 16.9%、女子が 23.3%いるという点は、注意する必要がある。

ここで、学年別に三重クロス集計をすると(図表 -2-6) 予想通り、学年が上がるに従って、男女が分かれて遊ぶ傾向が高くなる。特に中2男女が、「男子と女子とまざって遊ぶ」割合が、それぞれ 2.8%、3.1%と、それまで 1 割程度だったのが、3%程度にまで減少している。

【図表 -2-6】一緒に遊ぶ友だちの性別(男女・学年別%)

(%)

		人数	女子とだけ遊ぶ事が多い	男子とだけ遊ぶ事が多い	女子と男子まざって遊ぶ事が多い	女子と遊ぶ事が多いが、男子と遊ぶ事もある	男子と遊ぶ事が多いが、女子と遊ぶ事もある	ひとりで過ごす事が多い	2
女子	小4	437	49.9	0.2	10.5	29.7	2.7	6.9	
	小6	452	61.5	0.2	10.2	22.6	0.9	4.6	
	中2	415	77.1	0	3.1	17.3	0.2	2.2	
	合計	1304	62.6	0.2	8.1	23.3	1.3	4.6	
男子	小4	464	0.9	55.0	11.9	1.5	25.6	5.2	
	小6	438	0.7	71.5	10.3	0.2	14.4	3.0	
	中2	466	0.2	81.3	2.8	0.4	10.7	4.5	
	合計	1368	0.6	69.2	8.3	0.7	17.0	4.2	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

2.3. 学校とクラスに対する評価(問4)

問4では、学校とクラスに対する児童・生徒による評価を尋ね、回答は、各項目に対して、「そう思う」「どちらでもない」「そう思わない」の中から一つを選択してもらった。

「学校に行くのが楽しみだ」

この項目に対して男女別の相違をみてみると、女子の「そう思う」という肯定率(59.1%)と、男子の「どちらでもない」という割合(40.3%)が、それぞれわずかに大きい。また、学年別にみると、「どちらでもない」及び「そう思わない」と答えている児童・生徒の割合が、学年が上がるにしたがって増えており、肯定的評価をする割合が減る傾向にある。

さらに三重クロス集計を行ってみたところ(図表 -2-7) 中2男子の 46.4%が「どちらでもない」と回答しており、この回答傾向が全体に影響を与えているように思われる。

【図表 -2-7】学校に行くのが楽しみだ（男女・学年別％）

(%)

		人数	そう思う	どちらでもない	そう思わない	2
女子	小4	436	64.7	31.0	4.4	**
	小6	451	57.4	35.9	6.7	
	中2	415	55.2	33.7	11.1	
	合計	1302	59.1	33.6	7.3	
男子	小4	461	60.3	30.6	9.1	***
	小6	438	46.3	43.8	9.8	
	中2	466	44.0	46.6	9.4	
	合計	1365	50.3	40.3	9.5	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「今のクラスになってよかった」

この項目の回答傾向は、と類似していた。つまり、男女ともに「そう思う」と回答する割合が高い（男子が 59.3%、女子が 64.1%）。また、学年別の集計結果も同様に、「どちらでもない」及び「そう思わない」と答えている割合が、学年が上がるにしたがって増えてはいるものの、中2の「そう思う」と肯定的な評価を与えるものが半数を超えていた。

【図表 -2-8】今のクラスになってよかった（男女・学年別％）

(%)

		人数	そう思う	どちらでもない	そう思わない	2
女子	小4	433	72.1	23.8	4.2	***
	小6	451	63.2	30.4	6.4	
	中2	415	56.9	30.6	12.5	
	合計	1299	64.1	28.3	7.6	
男子	小4	460	65.7	25.7	8.7	***
	小6	438	61.4	31.1	7.5	
	中2	466	51.3	39.3	9.4	
	合計	1364	59.4	32.0	8.6	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「今のクラスは、男女がなかよしだ」

この設問と以下の は、男女の関係性についての設問である。

に関しては、男女の回答傾向に有意な差がみられる（ $P=0.003$ ）。ただし実数的には、男女ともに「どちらでもない」と回答する割合が 47%台と三つの選択肢中最も多く、相対的に、女子の方が肯定的評価が高く、反対に男子の否定的評価が少し高い。

学年別のクロス集計の結果をみると、学年が上がるにしたがって、肯定的評価が多くなり、否定的評価が少なくなる。

三重クロス集計をみると（図表 -2-9）女子に関して、有意差がなかった。小4男子は「そう思わない」と回答するものの割合が 25.8%いたのに対して、小6男子では 19.3%、

中2男子では15.9%と減少し、その分「どちらでもない」と「そう思う」が増加している。しかし女子の場合は、それほど急激な増減がなく、特に小6女子と中2女子は、ほぼ同じ割合を示している。つまり、男子は学年が上がるにしたがって少しずつ肯定的な評価が増えているが、女子は学年にかかわらず、3割から4割弱の割合で「男女がなかよしだ」と思っているようだ。

【図表 -2-9】今のクラスは、男女がなかよしだ（男女・学年別％）

		人数	そう思う	どちらでもない	そう思わない	2
女子	小4	427	32.6	49.4	18.0	n.s.
	小6	449	38.5	46.5	14.9	
	中2	415	38.8	46.3	14.9	
	合計	1291	36.6	47.4	16.0	
男子	小4	454	29.7	44.5	25.8	**
	小6	436	31.9	48.9	19.3	
	中2	466	34.1	50.0	15.9	
	合計	1356	31.9	47.8	20.3	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「みんなが協力し合うクラスだ」

男女別のクロス集計の結果をみると、有意な結果は出なかった。つまり、男女間に差異はないということになる。男女ともに4割程度「そう思う」と回答し、4割強「どちらでもない」と回答している。

次に学年別にみると（図表 -2-10）小6の回答において「どちらでもない」と答えた割合が約5割となっており、判断を保留したものが多いという結果が出ていた。

【図表 -2-10】みんなが協力し合うクラスだ（学年別％）

	人数	そう思う	どちらでもない	そう思わない	2
小4	887	47.7	40.4	12.0	***
小6	890	40.6	49.9	9.6	
中2	882	37.1	47.6	15.3	
合計	2659	41.8	46.0	12.3	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「男女で協力することが多いクラスだ」

と同様、この項目も男女の関係性についての設問となる。しかし、の回答傾向とは異なり、男女間の有意な差は見られなかった（ $P=0.166$ ）。男女ともに「そう思う」が2割5分強、「どちらでもない」が5割強という割合を示していた。

学年別のクロス集計をみると（図表 -2-11）学年が上がるにしたがって、「そう思う」と回答する割合が減少するものの、小6の「どちらでもない」という回答が55.5%と

突出している。

【図表 -2-11】 みんなが協力し合うクラスだ（学年別％）

					(%)
	人数	そう思う	どちらでもない	そう思わない	2
小4	887	47.7	40.4	12.0	***
小6	890	40.6	49.9	9.6	
中2	882	37.1	47.6	15.3	
合計	2659	41.8	46.0	12.3	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

問4全体の回答傾向をみると、相対的に男子よりも女子の方が、学校とクラスについて、肯定的評価をしている項目が多く、学年が上がるにしたがって、肯定的評価が低くなり、「どちらでもない」という判断の保留か、否定的な評価が少しながら多くなる、という傾向が示された。

2.4. クラスのようすについて（問5）

問5では、クラスの男女の特徴や行動傾向について尋ねた。

「授業でよく発言するのは」

男女の回答傾向には、有意な差はまったくみられなかった。つまり男女ともに「男の子のほう」が4割強、「どちらでもない」が同様に4割強と回答していた。このような男女別の傾向に対して、学年別の回答傾向をみてみると（図表 -2-12）、小4と小6の間に差が見られ、小4では「女の子のほう」と答えている割合が24.7%、「男の子のほう」と答えている割合が29.9%となっているが、小6と中2では、それぞれ10%程度と47%程度となっている。

【図表 -2-12】 授業でよく発言するのは（学年別％）

					(%)
	人数	女の子のほう	どちらでもない	男の子のほう	2
小4	899	24.7	45.4	29.9	***
小6	892	10.0	42.6	47.4	
中2	882	10.0	42.5	47.5	
合計	2673	14.9	43.5	41.6	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「教室でえらそうにしているのは」

この設問では、男子による「女の子のほう」と回答している割合が18.4%と、女子のそれ（12.7%）よりも多くなり、女子の「男の子のほう」と回答している割合が37.0%となっ

ており、男女間に有意な差が見出された。ただし、判断保留の「どちらでもない」が男女とも半数強いる。学年別にみても、と同様に小4と小6の間に大きな相違が見られる。小4の「男の子のほう」と回答した割合は48.3%だったのに対し、小6「男の子のほう」と回答した割合は28.8%であり、そのほとんどが「どちらでもない」の割合に移動しているように見える。

三重クロス集計をみると(図表 -2-13) 小4男子と小6男子では「女の子のほう」と回答している割合が21%台であり変わらないのに対し、「男の子のほう」と回答している割合、および「どちらでもない」の割合が、それぞれ2割程度の変化を示している。他方、小4女子と小6女子では、「女の子のほう」と回答している割合が増加し、半数以上が「男の子のほう」と回答していたのが33.0%まで減少していた。

【図表 -2-13】教室でえらそうにしているのは(男女・学年別%)

		人数	女の子のほう	どちらでもない	男の子のほう	(%)
女子	小4	434	9.0	38.7	52.3	***
	小6	448	17.2	49.8	33.0	
	中2	415	11.8	62.9	25.3	
	合計	1297	12.7	50.3	37.0	
男子	小4	461	21.3	34.3	44.5	***
	小6	437	21.7	54.0	24.3	
	中2	466	12.4	62.9	24.7	
	合計	1364	18.4	50.4	31.2	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「意見がよく通るのは」

この設問に関しては、男女ともに自分の性別のほう「意見がよく通る」と回答している。また学年別にみても、学年が上がるにしたがって、「女の子のほう」と回答する割合が減少している。ただし、この回答でも半数以上の回答者が、「どちらでもない」としている(とりわけ、中2は62.4%)ことに注意したい。

三重クロス集計をみると(図表 -2-14) 小4女子の40.6%が「女の子のほう」と回答しているが、学年が上がるにしたがって、その割合は減少し(中2女子で26.3%)、その分「どちらでもない」の割合が増加している。他方、小4男子においても「女の子のほう」の割合は、学年に応じて減少するものの、「男の子のほう」とする割合は、小4男子と小6男子ではそれほど変化しておらず、中2男子において64.7%が「どちらでもない」と回答していた。

【図表 -2-14】意見がよく通るのは（男女・学年別％）

（％）

		人数	女の子のほう	どちらでもない	男の子のほう	2
女子	小4	429	40.6	47.6	11.9	***
	小6	447	30.4	54.6	15.0	
	中2	415	26.3	59.8	14.0	
	合計	1291	32.5	53.9	13.6	
男子	小4	458	25.3	49.1	25.5	***
	小6	435	17.7	56.1	26.2	
	中2	465	17.0	64.7	18.3	
	合計	1358	20.0	56.7	23.3	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「教室でよくからかわれているのは」

男子は、自分たちのほうが「よくからかわれている」と考えており（29.7%）、女子は「男の子のほう」が27.7%、「女の子のほう」が24.1%と、少ないながらも意見が分かれている。学年間での変化をみると（図表 -2-15）、学年が上がるにしたがって、「女の子のほう」が減少し、「男の子のほう」が増加している。

【図表 -2-15】教室でよくからかわれているのは（学年別％）

（％）

	人数	女の子のほう	どちらでもない	男の子のほう	2
小4	894	28.0	51.6	20.5	***
小6	886	19.3	53.6	27.1	
中2	881	10.0	51.5	38.5	
合計	2661	19.1	52.2	28.6	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「得をしているのは」

男女別の回答傾向をみると、男女ともに7割強が「どちらでもない」と回答しているが、相対的には、男女ともに「女の子のほう」と回答する割合が高い。次に、学年別にみると（図表 -2-16）、学年が上がるにしたがって「女の子のほう」「男の子のほう」と回答する割合が減少し、中2では「どちらでもない」と回答している割合が実に81.9%と高い割合を示している。

【図表 -2-16】得をしているのは（学年別％）

					(%)
	人数	女の子のほう	どちらでもない	男の子のほう	2
小4	895	19.2	66.1	14.6	***
小6	889	18.0	71.0	11.0	
中2	878	9.8	81.9	8.3	
合計	2662	15.7	73.0	11.3	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

「リーダーになるのは」

男女別にみても、男子の「男の子のほう」と回答するものの割合が4割弱となっており、女子は「女の子のほう」が23.8%、「男の子のほう」24.0%と、それぞれの割合が拮抗していた。学年別の回答傾向をみると、「男の子のほう」と回答するものが、各学年毎におおむね3割を占め、「どちらでもない」が学年が上がるにしたがって徐々に増加し、「女の子のほう」と回答するものが徐々に減少する。

ここでも、三重クロス集計をみると（図表 -2-17）男子では有意差が消えず、女子では有意差が消える。これは、男子も女子も同性が「リーダーになる」と回答する傾向があり、女子においては学年間で回答傾向の差がないにも拘わらず、中2男子において「女の子のほう」と答える割合が6.9%と圧倒的に減少するためである。つまり、 においては、男子と女子で回答の傾向が異なることが確認できた。

【図表 -2-17】リーダーになるのは（男女・学年別％）

					(%)	
		人数	女の子のほう	どちらでもない	男の子のほう	2
女子	小4	431	26.9	48.3	24.8	n.s.
	小6	448	24.1	51.1	24.8	
	中2	414	20.3	57.5	22.2	
	合計	1293	23.8	52.2	24.0	
男子	小4	460	17.0	43.3	39.8	***
	小6	436	11.7	48.4	39.9	
	中2	466	6.9	57.7	35.4	
	合計	1362	11.8	49.9	38.3	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

問5全体に関しては、ほとんどの設問に関して「どちらでもない」と回答する割合が高くなる傾向がみられた。この点に関して学年別にみると、学年が上がるにしたがって、増加する傾向が大きい。

3. クラス・担任の先生との関係

3.1. 授業中の様子（問6）

授業中の自分自身の様子や先生との関わりについて、図表 -3-1 に示すような7項目を設定し、当てはまるものすべてに をつけてもらった。まず、小4～中2までの全体に関する男女差と学年差をみてみよう。

男女差に関しては（図表 -3-1）、「(1)授業中、よく手をあげる事が多い」、「(3)先生から、叱られる事が多い」は、男子は女子よりも比率が高い。「(6)休み時間に、先生と一緒に遊ぶ事が多い」を選択した者は、女子の方が男子よりも多いが、全体としての比率そのものが3.2%ときわめて低い。一方、「(7)あてはまるものはない」と回答した者が全体で39.9%おり、女子の方が男子よりも多い。

【図表 -3-1】授業中の様子であてはまるもの（男女別 %）

	女子 1305人	男子 1377人	合計 2682人	2
(1)授業中、よく手をあげる事が多い	23.4	29.8	26.7	***
(2)授業中、先生にあてられる事が多い	20.1	19.7	19.9	n.s.
(3)先生から、叱られる事が多い	6.7	18.4	12.7	***
(4)先生から、話しかけられる事が多い	20.8	18.7	19.8	n.s.
(5)先生から、仕事を頼まれる事が多い	20.0	22.4	21.3	n.s.
(6)休み時間に、先生と一緒に遊ぶ事が多い	3.9	2.5	3.2	**
(7)あてはまるものはない	42.5	37.3	39.9	**

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

【図表 -3-2】授業中の様子であてはまるもの（学年別 %）

	小4 911人	小6 896人	中2 885人	合計 2692人	2
(1)授業中、よく手をあげる事が多い	35.7	26.7	17.3	26.6	***
(2)授業中、先生にあてられる事が多い	21.5	19.8	18.3	19.9	n.s.
(3)先生から、叱られる事が多い	14.7	14.3	9.0	12.7	***
(4)先生から、話しかけられる事が多い	24.3	16.7	18.2	19.8	***
(5)先生から、仕事を頼まれる事が多い	25.9	19.4	18.1	21.2	***
(6)休み時間に、先生と一緒に遊ぶ事が多い	5.2	3.3	1.0	3.2	***
(7)あてはまるものはない	31.3	40.3	48.2	39.9	***

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

学年差に関しては（図表 -3-2）、「(2)授業中、先生にあてられる事が多い」を除いた6項目すべてで違いがあった。(1)～(6)までの6項目はすべて、先生との関わりを示す内容

であり、小4が最も多く、小6、中2と学年が進むにつれて先生との関わりは減少している。「(7)あてはまるものがない」という回答も、小4の31.3%に対し、中2では48.2%へと増大している。

以下では、男女別、学年別ともに差がなかった「(2)授業中、先生にあてられる事が多い」を除いた各項目について、学年・男女別の三重クロス分析を行うこととする。

授業中、よく手をあげることが多いか

学年が進むにつれて全体としては「授業中、よく手をあげること」は減少する。特に女子の減少は、男子よりも著しい。小4では男女差がなかったものの、小6、中2では、女子は男子よりも、授業中に手をあげることが少ない(図表 -3-3)。

【図表 -3-3】授業中、よく手をあげることが多いか(学年・男女別%)

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	63.4	36.6	n.s.
	男子	468	65.2	34.8	
小6	女子	453	80.8	19.2	***
	男子	440	65.5	34.5	
中2	女子	415	85.8	14.2	*
	男子	468	79.9	20.1	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

先生から、叱られることが多いか

小4、小6ともに男子は女子よりも叱られることが多い。中2になると、全体として叱られることは減少し、男女差はなくなる(図表 -3-4)。

【図表 -3-4】先生から、叱られることが多いか(学年・男女別%)

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	94.1	5.9	***
	男子	468	76.9	23.1	
小6	女子	453	93.2	6.8	***
	男子	440	78.4	21.6	
中2	女子	415	92.8	7.2	n.s.
	男子	468	89.3	10.7	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

先生から、話しかけられることが多いか

中2では、女子は男子よりも「先生から話しかけられることが多い」が、他の学年では男女差はない(図表 -3-5)。

【図表 -3-5】先生から話かけられることが多いか(学年・男女別 %)

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	74.8	25.2	n.s.
	男子	468	76.5	23.5	
小6	女子	453	83.7	16.3	n.s.
	男子	440	83.0	17.0	
中2	女子	415	78.8	21.2	*
	男子	468	84.4	15.6	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

先生から、仕事をたのまれることが多いか

「先生から仕事を頼まれる」ことは小4が他の学年よりも多いが、どの学年でも男女差はない(図表 -3-6)。

【図表 -3-6】先生から仕事をたのまれることが多いか(学年・男女別 %)

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	73.0	27.0	n.s.
	男子	468	74.8	25.2	
小6	女子	453	83.0	17.0	n.s.
	男子	440	78.0	22.0	
中2	女子	415	84.1	15.9	n.s.
	男子	468	79.9	20.1	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

休み時間に、先生と一緒に遊ぶことが多いか

小4では、休み時間に先生と一緒に遊ぶのは女子の方が男子よりも多いが、小6、中2では男女差がなくなる。かつ、全体として、先生と一緒に遊ぶ者は少ない(図表 -3-7)。

【図表 -3-7】 休み時間に、先生と一緒に遊ぶことが多いか（学年・男女別 %）

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	93.1	6.9	*
	男子	468	96.4	3.6	
小6	女子	453	96.7	3.3	n.s.
	男子	440	96.6	3.4	
中2	女子	415	98.6	1.4	n.s.
	男子	468	99.4	0.6	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

3.2. クラスの友だちは、授業中の発言を聞いてくれるか（問7）

「授業中に発言した時に、クラスの友だちは、その発言を聞いてくれるか」を尋ね、あてはまるものを選択してもらった。全体としては、どの学年でも、友だちは自分の発言を「よく」または「わりと」聞いてくれるととらえている。

次に学年ごとに男女差があるかどうかをみると（図表 -3-8）、小4では男子の方が女子よりも、自分の話を「あまり」または「ぜんぜん」聞いてくれない、と感じる率が多かった。しかし、小6、中2になると、友だちの反応のとらえ方に男女差はないと言えよう。

【図表 -3-8】 クラスの友だちは、授業中の発言を聞いてくれるか（学年・男女別 %）

		人数	授業中にあなたが発言した時のクラスの友達の反応					2
			自分の話をよく聞いてくれる	自分の話をわりと聞いてくれる	どちらともいえない	自分の話をあまり聞いてくれない	自分の話をぜんぜん聞いてくれない	
小4	女子	435	31.5	36.3	27.6	3.9	0.7	**
	男子	460	31.3	32.4	25.4	8.0	2.8	
小6	女子	451	22.6	43.9	30.4	3.1	0.0	-
	男子	438	25.8	43.2	27.2	3.0	0.9	
中2	女子	413	22.0	42.1	31.5	3.4	1.0	n.s.
	男子	464	16.4	40.5	39.4	2.2	1.5	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

3.3. 担任の先生についての感じ方（問8）

担任の先生についての感じ方について、図表 -3-9 に示すような 11 項目を設定し、あてはまるものをすべてにをつけてもらった。まず、小4から中2までの全体に関する男女差（図表 -3-9）と学年差（図表 -3-10）について述べる。

3.3.1. 先生との信頼関係

(1)～(6)までは、先生との信頼関係に関するものであるが、6項目中3項目で男女差があった。「(2)先生は、私が何か上手く出来ない時、励ましてくれる」「(5)先生は、私が困ったとき助けてくれるだろう」という2項目は、女子の方が男子よりも選択率が高かった。当人にとって他者からの援助を必要とするような場面において、女子は男子よりも多く、担任からそれを受けていると感じている。一方、「(6)先生は、私に期待している」では、男子の方が女子よりも多く選択していた。自分の力がより大きく発揮できる場面において、先生との関係を感じていると言えよう。

次に、学年差に関して(1)～(6)までを同様に調べると、6項目中5項目で学年差があり、いずれも小4、小6、中2と学年が進行するにつれて選択率は低下した。これは一つの発達傾向と捉えることができる。唯一、「(5)先生は、私が困ったとき助けてくれるだろう」に関しては有意な学年差がなく、どの学年においても同程度に選択していた。

男女を合わせた合計をみると、担任の先生について児童・生徒が最も多くあてはまると回答した項目は、第1に「(1)先生は、私のよいところをほめてくれる」であり、第2に「先生は、私が困ったときに助けてくれるだろう」、第3に「先生は、私が何か上手く出来ないときに、励ましてくれる」であった。

【図表 -3-9】担任の先生について、どう思うか（男女別 %）

	女子 1305人	男子 1377人	合計 2682人	2
(1)先生は、私のよいところをほめてくれる	48.4	45.5	46.9	n.s.
(2)先生は、私が何か上手く出来ない時、励ましてくれる	36.9	31.4	34.1	**
(3)先生は、私の気持ちをよくわかってくれる	26.5	26.4	26.5	n.s.
(4)先生には、何でも話せる	18.2	18.8	18.5	n.s.
(5)先生は、私が困ったとき助けてくれるだろう	38.8	33.3	36.0	**
(6)先生は、私に期待している	9.0	12.3	10.7	**
(7)先生は、男の子よりも女の子にやさしい	18.0	26.4	22.3	***
(8)先生は、女の子よりも男の子にやさしい	4.5	2.5	3.5	**
(9)先生は、女の子と男の子に同じように接している	63.1	54.2	58.5	***
(10)先生は、男女を区別する	8.4	15.5	12.0	***
(11)あてはまるものはない	7.3	8.8	8.1	n.s.

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

【図表 -3-10】担任の先生について、どう思うか（学年別 %）

	小4 911人	小6 896人	中2 885人	合計 2692人	2
(1)先生は、私のよいところをほめてくれる	54.9	48.4	36.9	46.8	***
(2)先生は、私が何か上手く出来ない時、励ましてくれる	39.1	34.2	28.7	34.0	***
(3)先生は、私の気持ちをよくわかってくれる	34.2	26.6	18.1	26.4	***
(4)先生には、何でも話せる	29.3	14.0	12.1	18.5	***
(5)先生は、私がこまったとき助けてくれるだろう	38.1	34.3	35.5	36.0	n.s.
(6)先生は、私に期待している	17.0	7.3	7.6	10.7	***
(7)先生は、男の子よりも女の子にやさしい	32.1	21.3	13.1	22.3	***
(8)先生は、女の子よりも男の子にやさしい	2.7	4.0	3.7	3.5	n.s.
(9)先生は、女の子と男の子に同じように接している	56.6	60.8	58.0	58.5	n.s.
(10)先生は、男女を区別する	15.8	12.4	7.9	12.1	***
(11)あてはまるものはない	5.0	6.5	12.9	8.1	***

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

3.3.2. 男女に対する先生の接し方をどう感じるか

前掲の図表の項目(7)～(10)は、先生が児童・生徒の性別に対してどのように接しているかに関する項目である。これら4項目は相互に補い合うので併せて考えてきたい。

まず、男女差は全4項目について有意であった。すなわち、「(9)先生は、女の子と男の子に同じように接している」と感じているのは女子(63.1%)の方が男子(54.2%)よりも多い。一方、「(10)先生は、男女を区別する」と感じているのは、男子(15.5%)の方が女子(8.4%)よりも多い。そして、「(7)先生は、男の子よりも女の子にやさしい」と男子の方が多く感じ、「(8)先生は、女の子よりも男の子にやさしい」と女子の方が多く感じている。しかし、項目(9)で示されるように、全体としては58.5%の者が、「先生は、女の子と男の子に同じように接している」と感じている。

次に学年差に目を転じると、4項目中2項目で有意であり、いずれも学年の進行につれて選択率は減少した。すなわち「(7)先生は、男の子よりも女の子にやさしい」は、32.1%から13.1%へと減少、「(10)先生は、男女を区別する」は15.8%から7.9%へと減少した。「(9)先生は、女の子と男の子に同じように接している」に関しては学年間の差がない。

3.3.3. 担任についての感じ方の学年・男女別の分析

ここでは、各項目ごとに、学年・男女別の三重クロスで傾向を分析する。

先生は、よいところをほめてくれるか（図表 -3-11）

小6においてのみ男女差があり、女子の方が男子よりも「先生は、よいところをほめてくれる」と感じている。

【図表 -3-11】先生は私のよいところをほめてくれる（学年・男女別 %）

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	42.8	57.2	n.s.
	男子	468	47.4	52.6	
小6	女子	453	48.6	51.4	*
	男子	440	54.3	45.7	
中2	女子	415	64.3	35.7	n.s.
	男子	468	61.8	38.2	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

先生は、何か上手くできない時に励ましてくれるか（図表 -3-12）

小6では男女差がないが、小4、中2ともに、女子の方が男子よりも「先生は、何か上手くできない時に励ましてくれる」と感じている。

【図表 -3-12】先生は私が何か上手くできない時、励ましてくれる（学年・男女別 %）

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	57.2	42.8	*
	男子	468	64.3	35.7	
小6	女子	453	64.2	35.8	n.s.
	男子	440	67.3	32.7	
中2	女子	415	68.2	31.8	*
	男子	468	73.9	26.1	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

先生は、困ったとき助けてくれるか（図表 -3-13）

小6でのみ、女子は男子よりも「先生は、困ったとき助けてくれる」と感じている。小4、中2では、感じ方の男女差はない。

【図表 -3-13】先生は、私が困ったとき助けてくれるだろう（学年・男女別 %）

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	60.2	39.8	n.s.
	男子	468	63.5	36.5	
小6	女子	453	59.6	40.4	***
	男子	440	71.8	28.2	
中2	女子	415	64.1	35.9	n.s.
	男子	468	65.0	35.0	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

先生は、自分に期待しているか（図表 -3-14）

中2においてのみ、男子が女子よりも「先生は自分に期待している」と感じている。ただし、このように感じている児童・生徒は全体としてきわめて少なく、小4でさえも17.0%であり、小6、中2ともなると7%台であった。

【図表 -3-14】先生は、私に期待している（学年・男女別 %）

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	84.9	15.1	n.s.
	男子	468	81.0	19.0	
小6	女子	453	93.6	6.4	n.s.
	男子	440	91.8	8.2	
中2	女子	415	94.5	5.5	*
	男子	468	90.6	9.4	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

先生は、男の子よりも女の子にやさしいか（図表 -3-15）

どの学年でも、「先生は、男の子よりも女の子にやさしい」と感じている男子が女子よりも多かった。ただし、その比率は学年進行とともに減少している。

【図表 -3-15】先生は、男の子よりも女の子にやさしい（学年・男女別 %）

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	72.3	27.7	**
	男子	468	63.7	36.3	
小6	女子	453	83.9	16.1	***
	男子	440	73.4	26.6	
中2	女子	415	90.1	9.9	**
	男子	468	84.0	16.0	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

先生は、女の子よりも男の子にやさしいか（図表 -3-16）

小6においてのみ、「先生は、女の子よりも男の子にやさしい」と感じている女子が男子よりも多かった。ただし、このように感じている児童・生徒は全体としてはきわめて少ない。

【図表 -3-16】先生は、女の子よりも男の子にやさしい(学年・男女別 %)

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	98.2	1.8	n.s.
	男子	468	96.4	3.6	
小6	女子	453	93.6	6.4	***
	男子	440	98.4	1.6	
中2	女子	415	94.7	5.3	*
	男子	468	97.6	2.4	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

先生は女の子と男の子に同じように接しているか(図表 -3-17)

【図表 -3-17】先生は女の子と男の子に同じように接している(学年・男女別 %)

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	36.4	63.6	***
	男子	468	49.8	50.2	
小6	女子	453	34.9	65.1	**
	男子	440	43.2	56.8	
中2	女子	415	39.5	60.5	n.s.
	男子	468	44.2	55.8	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

小4、小6では「先生は女の子と男の子に同じように接している」と感じている比率が女子の方が男子よりも高く、約1割の開きがある。中2になると女子の割合下がり、男女差がなくなる。つまり、女子は中2になると、小4、小6ほどには、「先生が男女に同じように接している」とは思えなくなると言えよう。

先生は、男女を区別するか(図表 -3-18)

小4、小6で男女の感じ方に差があり、男子の方が女子よりも「先生は、男女を区別する」ととらえていた。

【図表 -3-18】先生は、男女を区別する（学年・男女別 %）

		人数	あてはまらない	あてはまる	2
小4	女子	437	90.6	9.4	***
	男子	468	78.6	21.4	
小6	女子	453	91.4	8.6	**
	男子	440	83.6	16.4	
中2	女子	415	93.0	7.0	n.s.
	男子	468	91.2	8.8	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

以上の ~ を総合してみると、「先生は男女に対して同じように接している」と感じている児童・生徒が全体で約6割を占める。その一方で、「先生は、男の子よりも女の子にやさしい」と男子の方が多く感じ、女子は「先生は、女の子よりも男の子にやさしい」と多く感じている。また、先生が男女に「同じように接している」とは思わない、「区別している」と感じている者は小4、小6の男子の方が女子よりも多い。

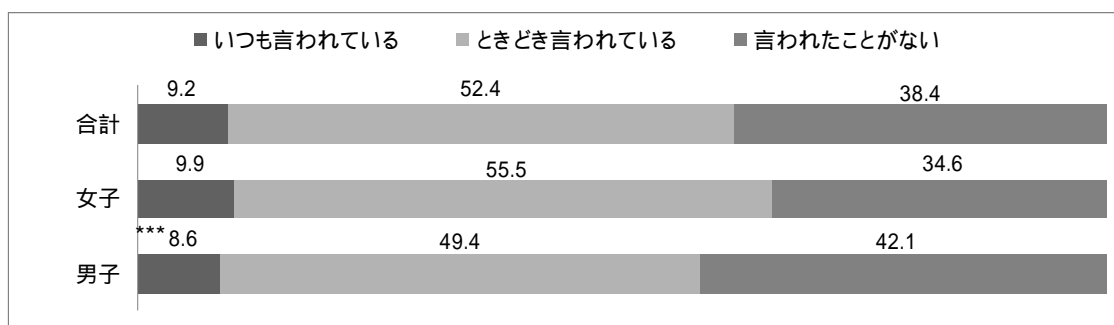
4. 家の人・先生・友だちから受ける注意

4.1. 「女(男)だから、 　しなさい」と言われることがあるか(問9)

子どもたちは、家の人や先生、友だちから「女(男)だから、 　しなさい」とどの程度言われているのだろうか。「いつも言われている」「ときどき言われている」「言われたことがない」から一つ選択してもらった。全体で見ると「いつも言われている」が1割弱、「ときどき言われている」が5割強、「言われたことがない」が4割弱となっており、およそ6割のものが「いつも」ないし「ときどき」は「女(男)だから、 　しなさい」と言われていることになる。

男女別に見ると(図表 -4-1)、男子よりも女子の方が言われることが多く、「いつも」と「ときどき」を合わせると男子の場合6割に満たないが(58.0%)、女子は6割を大きく上回っている(65.3%)。男子に対してよりも女子に対して、性別化された行動の期待が強いことを示している。

【図表 -4-1】「女(男)だから、 　しなさい」と言われるか (男女別%)



学年別では(図表 -4-2)、学年が進むにつれて「いつも」と「ときどき」を合わせた割合が少なくなり、小学校4年の67.8%から小学校6年59.5%、中学2年56.8と減少する。特に中学2年の男子の場合は、「いつも」と「ときどき」を合わせた割合が5割弱(49.4%)と少ない。これに対して同じ中学2年でも女子の場合は、13.9%が「いつも言われている」としており男子の6.1%と対称的である。さらに男子の場合は、学年が進むにつれて「いつも」と「ときどき」を合わせた割合がはっきりと減少するが、女子の場合には学年の違いが男子ほど目立たない。

【図表 -4-2】「女(男)だから、しなさい」と言われるか (男女・学年別%)

性別	学年	合計(人数)	いつも言われている	ときどき言われている	言われたことがない	2
男子	小4	451	11.8	58.1	30.2	***
	小6	431	7.9	46.6	45.5	
	中2	460	6.1	13.3	50.7	
	合計	1342	8.6	49.3	42.1	
女子	小4	429	7.7	58.3	34.0	*
	小6	439	8.4	56.5	35.1	
	中2	411	13.9	51.6	34.5	
	合計	1279	9.9	55.5	34.6	

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

地域別に見ると(図表 -4-3)、会津および福島市が相模原や国分寺よりも、「女(男)だから、しなさい」と言われることが多いようだ。特に会津の子どもたちの場合、「いつも」と「ときどき」を合わせると66.6%と他の地域よりも多いことが目につく。

【図表 -4-3】「女(男)だから、しなさい」と言われるか (地域別%)

地域	合計(人数)	いつも言われている	ときどき言われている	言われたことがない	2
福島市	700	8.1	55.6	36.3	*
会津	602	10.0	56.6	33.4	
国分寺	732	9.4	48.2	42.3	
相模原	597	9.4	48.9	41.7	
合計	2631	9.2	52.3	38.5	

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

次に、「いつも言われている」と「ときどき言われている」のいずれかにつけたものに対して、誰から「女(男)だから、しなさい」と言われるかについて「先生から」「友だちから」「家の人から」「そのほかの人から」の選択肢を示して、当てはまるものすべてにをつけてもらった。全体的には、9割弱が「家の人から」と回答しており、他の選択肢よりも圧倒的に多い(「先生から」12.4%、「友だちから」14.0%、「家の人から」88.7%、「そのほかの人から」3.0%)。

男女別に見ると(図表 -4-4)、「先生から」と「友だちから」はいずれも女子よりも男子が多く、「家の人から」は男子よりも女子が多い。特に「家の人から」と回答した女子は94.6%におよんでいる。家庭を離れた場での性別化された行動の期待は女子よりも男子に比較的多く見られるのに対して、家庭における親からの期待は女子の方が多いようだ。学年別および地域別の違いは殆ど示されなかった。

【図表 -4-4】誰から「女(男)だから、しなさい」と言われるか(男女別%)

	合計(人数)	先生から	友だちから	家の人から	その他の人から
男子	778	18.0	18.9	82.3	2.7
女子	837	7.2	9.4	94.6	3.3
合計	1615	12.4	14.0	88.7	3.0
2		***	***	***	ns

*p < 0.05 **p < 0.01 ***p < 0.001

以上のことから、今回の調査対象となった子どもたちの約6割が「家の人」から「いつも」ないし「ときどき」は「女(男)だから、しなさい」と言われていると認識しており、この傾向は男子よりも女子に、学年が下の方が強く見られた。

4.2. 家の人や先生から「注意されること」(問 10)

子どもたちは「家の人」や「先生」から、日常生活のどのようなことかについて注意されているのだろうか。「忘れ物」「言葉づかい」「清潔・身だしなみ」「整理・整頓」「手伝い」「食べ方などのお行儀」「勉強のこと」「家に帰る時刻」「一生懸命頑張らなかった時」「友だちと仲良くしなかった時」「泣いた時」といった項目について、「家の人」と「先生」別に注意されることすべてを選択してもらった。図表 -4-5 は、「家の人」と「先生」のそれぞれから注意されるものとして選択された割合を示したものである。

【図表 -4-5】「家の人」や「先生」から注意されること(%)

	合計(人数)	忘れ物	言葉づかい	清潔・身だしなみ	整理・整頓	手伝い	食べ方などのお行儀	勉強のこと	家に帰る時刻	一生懸命頑張らなかった時	友だちと仲良くしなかった時	泣いた時	当てはまるものはない
家の人から	2682	41.2	50.3	37.2	62.7	51.5	44.7	62.6	32.0	33.9	19.6	17.8	2.3
先生から	2682	45.5	24.0	33.1	17.3	6.3	10.7	26.3	13.9	21.1	20.3	6.8	10.6

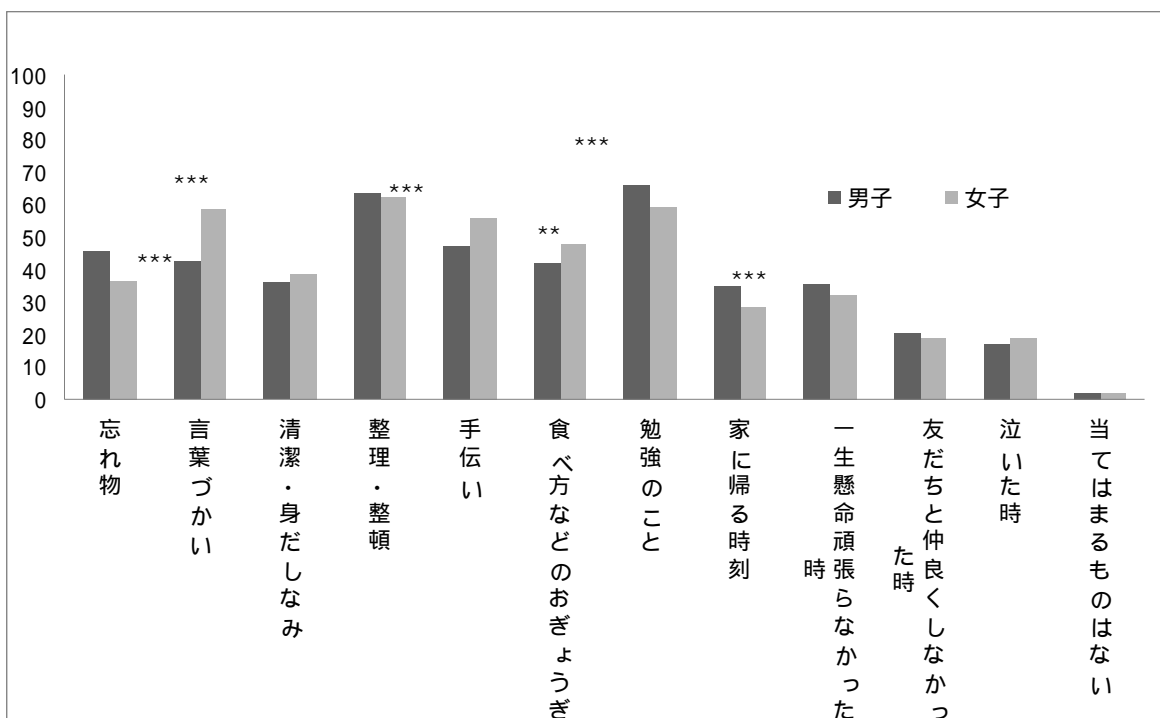
先ず「家の人」から注意されるものについて見てみよう(図表 -4-6)。全体的に6割以上のものが選択した項目は「整理・整頓」と「勉強のこと」で、次いで「手伝い」と「言葉づかい」が5割強、「食べ方などのお行儀」と「忘れ物」が4割強となっている。

男女別で(図表 -4-6)男子の方が女子よりも有意に多く選択された項目は、「忘れ物」(男子45.5%;女子36.7%,p < 0.001)、「勉強のこと」(男子65.9%;女子59.1%,p < 0.001)、「家に帰る時刻」(男子65.9%;女子59.1%,p < 0.001)である。反対に女子の方が男子よりも有意に多く指摘した項目は、「言葉づかい」(男子42.3%;女子58.7%,p < 0.001)、「手伝い」(男子47.4%;女子55.9%,p < 0.001)、「食べ方などのお行儀」(男子42.0%;女子47.6%,p < 0.01)で

あった。女子に多く見られた項目は、いずれも従来から女子に対して性別化された行動として期待されてきたものである。これらの項目に関して、先の問9で「家の人」から「女(男)だから、しなさい」と「いつもないし」「ときどき」言われていると回答した女子(792名)に絞ってそれぞれの割合を見てみると、「言葉づかい」は66.7%、「手伝い」は61.2%、「食べ方などのお行儀」は52.4%に増加し、「女だから……」といった性別化の意味合いが作用していることが推測される。男子に多かった項目の中で「勉強のこと」も、従来から男子に性別化されてきた期待であり、同様の分析(640名)をすると71.9%に増加する。子どもに対する家庭における性別化された行動の期待は、女子に対しては「言葉づかい」「手伝い」「食べ方などのお行儀」に対する注意、男子に対しては「勉強のこと」に対する注意という形で具体的になっているようだ。

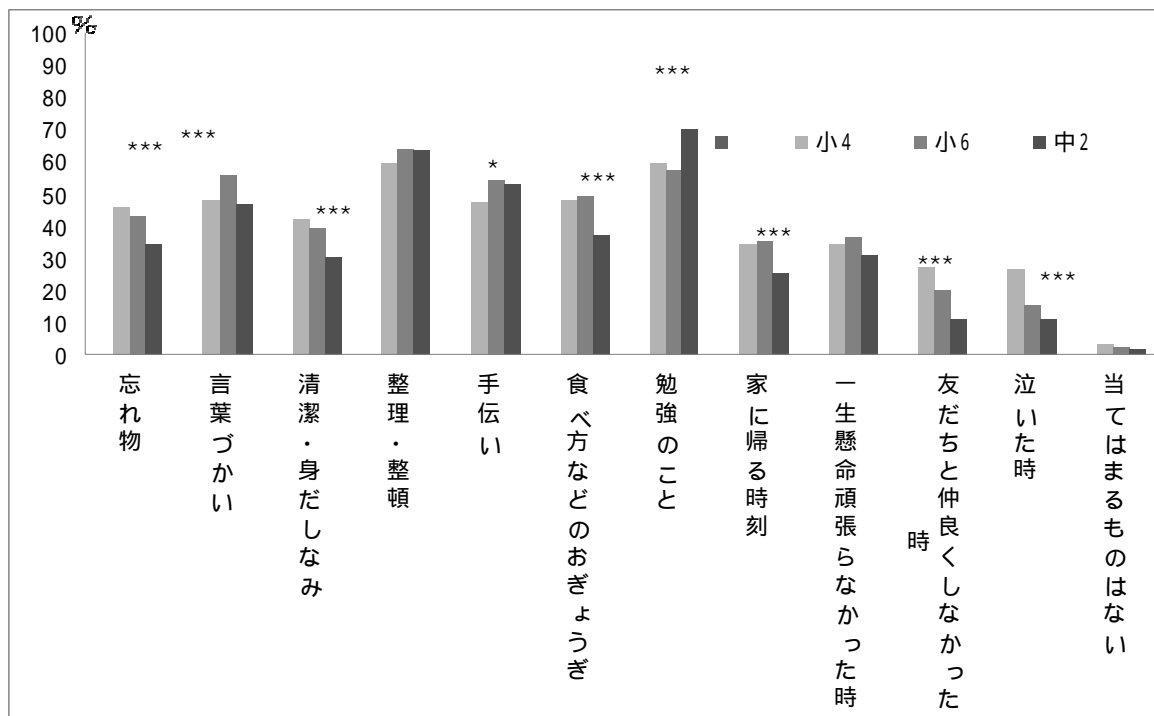
学年別に見ると(図-4-7)、小4から中2にかけて減少する項目は、「忘れ物」「清潔・身だしなみ」「食べ方などのお行儀」「家に帰る時刻」「友だちと仲良くしなかった時」「泣いた時」である。これらの項目は、いずれも日常的な生活習慣として年齢とともに確立していくものである。従って、学年の進行とともに注意されることも減少していくのであろう。これに対して増加する項目は、「手伝い」と「勉強のこと」の2項目だけである。特に後者は中2で70.1%と高い割合を示しており、進学の時期が迫りつつあることを反映しているようだ。

【図表 -4-6】「家の人」から注意されること(男女別%)



*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

【図表 -4-7】「家の人」から注意されること(学年別%)



*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

次に「先生」から注意されるものについて見てみよう(図表 -4-8)。全体的に、「家の人」から注意される場合に比べて「先生」から注意されるものとして選択される割合は少ない。一番多かった項目は「忘れ物」の 45.4%で、次いで「清潔・身だしなみ」33.2%、「勉強のこと」26.3%、「言葉づかい」23.9%となっている。

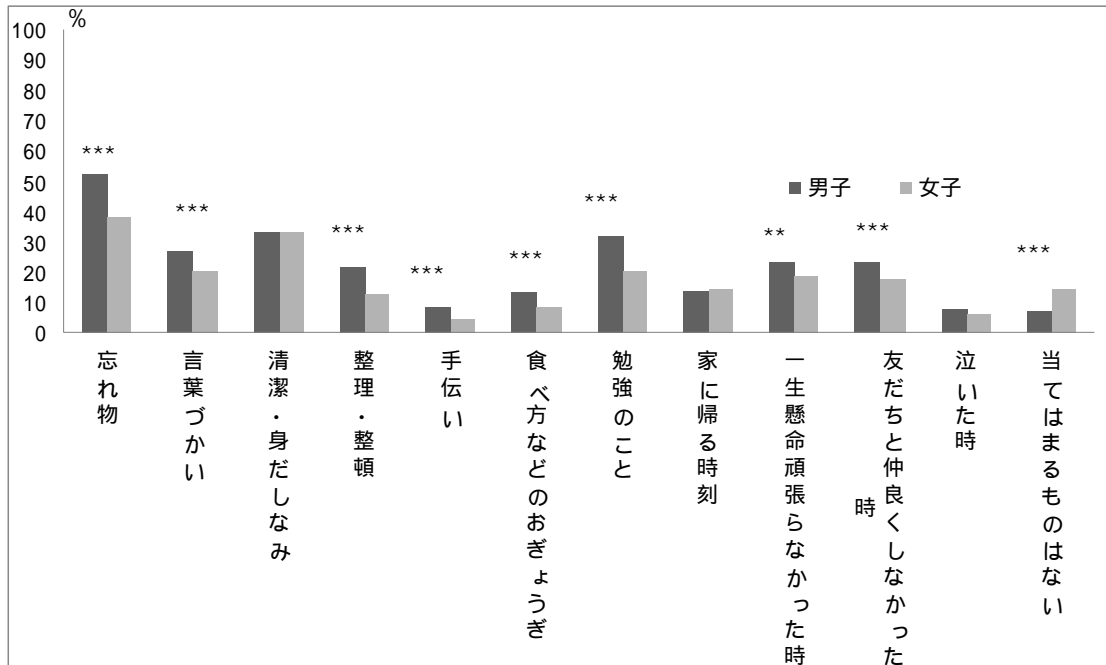
男女別に見ると(図 -4-8)、「清潔・身だしなみ」「家に帰る時刻」「泣いた時」の 3 項目を除いて、すべての項目に関して男子の方が女子よりも有意に高い割合で選択している。特に「忘れ物」(男子 52.7%;女子 37.9%, $p<0.001$)と「勉強のこと」(男子 31.9%;女子 20.5%, $p<0.001$)を選択した男子の割合の高さが目立つ。前述した「家の人」から注意される内容に比べて「先生」から注意される内容には、性別化された行動の期待を反映するといった特徴は見られない。学校での生活において、男子の方が女子よりも先生から注意される機会が全体的に多いことの反映だろう。

学年別では中2になると、「清潔・身だしなみ」を除いて、すべての項目において選択される割合が減少している(図表 -4-9)。「家の人」から「勉強のこと」について注意されるとした割合が目立った中2の男子についても、「先生」からの注意では他の学年と違いが見られない。

以上のことから、日常生活において注意される内容に関して、「家の人」からの注意において見られた性別化された行動への期待との関連性は、「先生」からの注意ではほとんど見

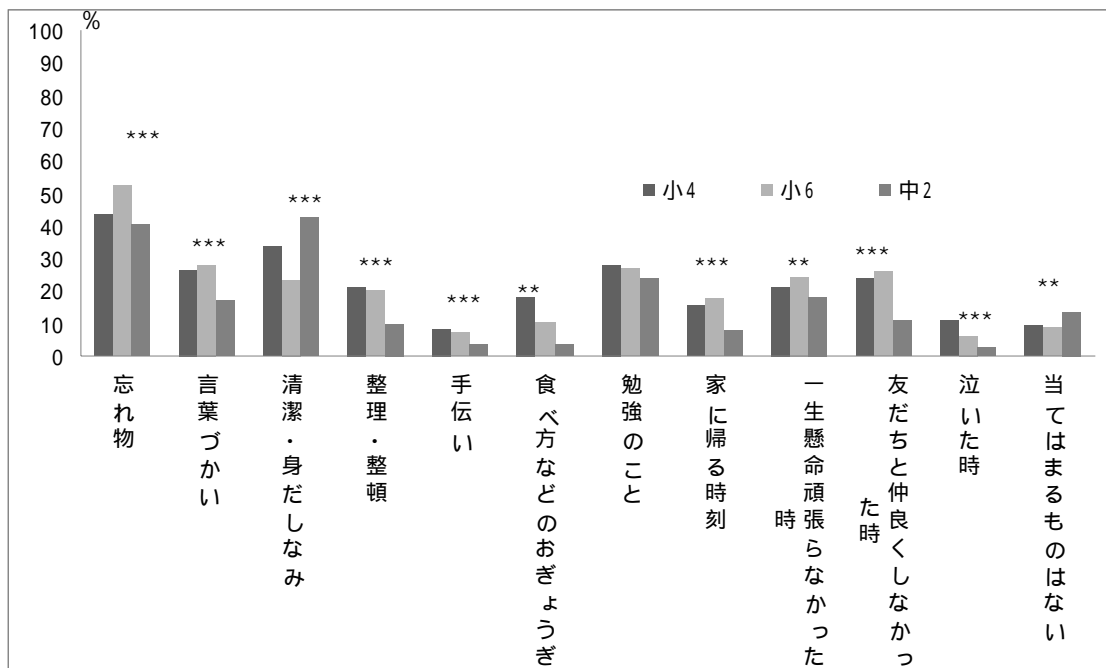
られない。

【図表 -4-8】「先生」から注意されること(男女別%)



*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

【図表 -4-9】「先生」から注意されること(学年別%)



*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

5．自分自身について

5.1. 自分自身について（問 11）

子どもたちは、親や教師から、性別によって異なった役割や性質を期待されている。そして、こうした周囲は、子供たちの性格形成や自己イメージに影響すると考えられる。

問 11 では、主に自分自身について、自己評価を求める質問項目に対して、「はい」「いいえ」「どちらともいえない」の 3 つの選択肢のどれかあてはまるものに をつけてもらった。

5.1.1. 自己肯定感と将来像（問 11 ～ ）

まず、自己肯定感・否定感、将来展望についてたずねた。自己を肯定的に捉えられているかどうか、否定的な感情を持っていることは、それぞれ精神的な健康だけではなく、将来展望の有無にも関連すると考えられる。

私には良いところがたくさんある（図表 -5-1）

「はい」と答えた児童・生徒が 13.2%と、自分を肯定的に捉えられている生徒が 1 割程度にとどまっており、あまり自分を肯定的に捉えていない様子が伺える。

学年別にみると、小 4 では「はい」と答えた児童は 20.2%であったが、小 6 では 10.4%、中 2 では 9.0%と、学年が進むにつれて自己肯定感を持てなくなっていく傾向が見られる。特に中 2 女子では「はい」と回答した生徒が 7.0%と、自己を肯定的に捉える割合が非常に低くなっていた。

【図表 -5-1】私にはよいところがたくさんある（男女・学年別％）

		人数	はい	どちらとも いえない	いいえ	2
女子	小4	417	19.9	66.4	13.7	***
	小6	441	9.3	71.7	19.0	
	中2	414	7.0	65.9	27.1	
	合計	1272	12.0	68.1	19.9	
男子	小4	444	20.5	62.2	17.3	***
	小6	428	11.4	69.6	18.9	
	中2	464	10.8	68.5	20.7	
	合計	1336	14.2	66.8	19.0	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

将来の夢や目標がある（図表 -5-2）

「はい」と答えた児童・生徒が 69.9%と、夢や目標がある生徒がほぼ 7 割に達していた。地域別に見たところ、「はい」と答えた児童・生徒は、福島市では 73.5%と多く、会津・猪苗代では 62.3%とやや少なくなっていた

男女を比較してみると、「はい」の比率が、女子の72.7%に対して男子は67.1%と、やや低くなっており、女子のほうが将来の夢や目標を持っている傾向がみられた。また、「はい」の比率を学年別にみると、小4で79.1%、小6で68.4%、中2で62.0%となっており、学年が進むにつれて将来の夢や目標を持ちにくくなる傾向がみられる。この傾向は男子に顕著にみられ、小4では「はい」と答える比率が77.0%であったのが、中2になると男子58.2%にまで低下していることから、男子の方が将来展望を持ちにくい状況にあると考えることが出来る。

【図表 -5-2】 将来の夢や目標がある（男女・学年別％）

(%)

		人数	はい	どちらとも いえない	いいえ	2
女子	小4	433	81.3	12.0	6.7	***
	小6	450	70.4	18.9	10.7	
	中2	415	66.3	20.5	13.3	
	合計	1298	72.7	17.1	10.2	
男子	小4	456	77.0	13.6	9.4	***
	小6	437	66.4	23.3	10.3	
	中2	466	58.2	26.6	15.2	
	合計	1359	67.1	21.2	11.7	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

だめな人間だと思うことがある（図表 -5-3）

の自己肯定と逆の関係にある自己否定的な感情についての設問だが、「はい」と答えた生徒が40.7%、「いいえ」と答えた生徒が17.6%と、約4割の生徒が自分がだめな人間だと思うことがあると回答しており、かならずしも 逆の分布にはなっていない。

男子では37.7%が「はい」と答えているが、女子では43.8%となっており、女子のほうが自分をだめな人間だと自己否定的な感情をもつ傾向が強い。また、学年でみると、「はい」と答えた生徒の比率が、小4では31.0%、小6では41.0%、中2では50.2%と学年が進むにつれて増加している。先の自己肯定感と合わせて考えても、学年が進むにつれ、自己肯定感をもちにくく、自己否定感を持ちやすくなっていると考えられる。さらに、小4では男子が30.4%、女子が31.6%と男女差がほとんどないが、小6では男子37.4%、女子44.4%となり、中になると男子45.1%、女子55.9%と男女差が拡大する。特に中2女子は半数以上が自己否定的な感情を持つという状況がある。

【図表 -5-3】 だめな人間だと思ふことがある（男女・学年別％）

（％）

		人数	はい	どちらとも いえない	いいえ	2
女子	小4	433	31.6	40.9	27.5	***
	小6	450	44.4	43.8	11.8	
	中2	413	55.9	36.3	7.7	
	合計	1296	43.8	40.4	15.7	
男子	小4	447	30.4	41.2	28.4	***
	小6	431	37.4	45.2	17.4	
	中2	466	45.1	42.5	12.4	
	合計	1344	37.7	42.9	19.3	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

これらの結果から、女子のほうが自己に対して肯定的になれず、否定的な感情を持つ傾向が強いことが明らかになった。また、学年とともに自己に対して否定的な感情を持つ児童・生徒が増える傾向も確認された。特に中2の女子生徒では自己評価が非常に低く、自己を否定的に捉える傾向が強く、問題が大きいと考えられる。

しかしその一方、将来の展望については、夢や目標を持つものは女子のほうが多くなっていた。ただし、将来の夢や目標は、学年があがるにつれて持つことが少なくなる傾向がある点に注意が必要である。

5.1.2. 自分の性格について（問11 ～ ）

問11の から にかけては、児童・生徒の性格特性において、周囲からの期待の違いが性別によって異なると思われる項目を中心として、自己評価をたずねた。それぞれ、「はい」「どちらでもない」「いいえ」の中から選択してもらった結果である。

勝ち負けにこだわるほうだ（図表 -5-4）

「はい」と答えた児童・生徒が41.8%、「いいえ」と答えた児童・生徒が20.8%と、ほぼ4割の児童・生徒が自分を「勝ち負けにこだわる」と考えていた。男子では「はい」と答えた生徒が46.4%だったが、女子では36.8%となっており、男子のほうが自分は勝ち負けにこだわる傾向がみられる。また、小4では「はい」と答えた児童は37.3%、小6では41.0%、中2では46.9%と、学年があがるにつれて勝ち負けにこだわる児童・生徒が増える傾向がみられた。

【図表 -5-4】勝ち負けにこだわるほうだ（男女・学年別％）

		人数	はい	どちらとも いえない	いいえ	2
女子	小4	427	30.7	34.0	35.4	***
	小6	447	36.9	42.3	20.8	
	中2	415	42.9	42.7	14.5	
	合計	1289	36.8	39.6	23.6	
男子	小4	455	43.5	32.1	24.4	***
	小6	436	45.2	38.1	16.7	
	中2	467	50.5	36.2	13.3	
	合計	1358	46.5	35.4	18.1	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

活発なほうだ（図表 -5-5）

「はい」と答えた児童・生徒が40.0%、「いいえ」と答えた児童・生徒が15.4%と、4割の児童・生徒が自分を活発なほうだと考えていた。男女差や学年による差はほとんどなく、「はい」と答えた児童・生徒の割合が、小4では男子43.3%、女子40.9%と、わずかではあるが男子のほうが自分を活発だとする傾向が強いが、小6では男子39.5%、女子40.1%とそれほど差がなくなる。そして中2になると男子32.3%、女子44.1%と女子のほうが自分を活発だとする傾向が強くなっていることから、特に男子において、学年があがるにつれて、自分のことを活発だと考えなくなるという傾向が見出された。

【図表 -5-5】活発なほうだ（男女・学年別％）

		人数	はい	どちらとも いえない	いいえ	2
女子	小4	430	40.9	40.7	18.4	*
	小6	449	40.1	45.4	14.5	
	中2	413	44.1	40.4	15.5	
	合計	1292	41.6	42.3	16.1	
男子	小4	453	43.3	41.9	14.8	n.s.
	小6	435	39.5	46.7	13.8	
	中2	467	32.3	52.0	15.6	
	合計	1355	38.3	46.9	14.8	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

几帳面なほうだ（きちんとしている）

「はい」と答えた児童・生徒が20.7%、「いいえ」が26.1%となっており、自分を几帳面だ（きちんとしている）と考える児童・生徒は2割程度であった。

「きちんとしている」ことは、特に女子に対して求められる性質であり、女子のほうが

あてはまると自己評価すると考えていたが、この設問については、学年による差も男女による差がほとんどみられなかった。

グループで行動するほうだ (図表 -5-6)

「はい」が46.3%、「いいえ」が14.4%、「どちらともいえない」が39.3%と、半数近くの児童・生徒が自分をグループで行動するほうだと考えていた。

「はい」と答えた児童・生徒は、小4では39.9%、小6では48.4%、中2では50.7%と、学年があがるにつれて多くなっていた。また、男子で41.8%、女子で51.0%と女子のほうが「はい」と答える児童・生徒が多くなっている。そのため、特に小6女子では52.6%、中2女子では58.1%と、過半数が自分をグループで行動するほうだと考えている。この結果は、「女の子はグループで行動する」というステレオタイプと一致しているが、女子では学年が進むにつれてこの傾向が強まるのに対し、男子ではそれほどの変化が見られない。

【図表 -5-6】グループで行動するほうだ (男女・学年別%)

(%)

		人数	はい	どちらともいえない	いいえ	2
女子	小4	431	42.5	39.9	17.6	***
	小6	449	52.6	36.3	11.1	
	中2	415	58.1	33.7	8.2	
	合計	1295	51.0	36.7	12.4	
男子	小4	454	37.4	42.1	20.5	***
	小6	435	44.1	37.9	17.9	
	中2	465	44.1	45.2	10.8	
	合計	1354	41.9	41.8	16.3	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

人のいうことは素直に聞くほうだ

「はい」が25.5%、「いいえ」が16.1%と、自分が素直に人の言うことを聞くと考える児童・生徒が4分の1程度となっている。人のいうことを素直に聞くという特性は、女子に対して強く求められるため、女子に「はい」が多いと考えられるが、学年・男女による差はほとんどなかった。

反抗的なほうだ (図表 -5-7)

「はい」が25.9%、「いいえ」が22.6%と、4分の1の生徒が自分を反抗的だと考えている。

学年別にみると、「いいえ」と答えるものの比率が学年によってかなり減少しており、小4で31.6%、小6で20.1%、中2で16.2%となっている。すなわち、自分を「反抗的で

ある」と考えるものはそれほど増加しないが、「反抗的ではない」と考えるものが少なくなるというかたちで、学年がすすむにつれて反抗的な児童・生徒が増えていくようである。

全体としての男女差はみられないものの、学年ごとに性別の集計を行うと、小4では男子24.7%、女子20.1%、小6でも男子29.3%、女子26.2%と、男女差はほとんどないが、男子のほうが「はい」と答える比率がやや高かったのに対して、中2では男子22.5%、女子33.0%と女子のほうが自分を反抗的なほうだと考える傾向がみられ、かならずしも、女子のほうが従順であるとはいえないことがわかる。

【図表 -5-7】 反抗的なほうだ (男女・学年別%)

(%)

		人数	はい	どちらともいえない	いいえ	2
女子	小4	427	20.1	46.1	33.7	***
	小6	450	26.2	54.9	18.9	
	中2	415	33.0	52.0	14.9	
	合計	1292	26.4	51.1	22.5	
男子	小4	450	24.7	45.8	29.6	***
	小6	434	29.3	49.8	21.0	
	中2	467	22.5	60.2	17.3	
	合計	1351	25.4	52.0	22.6	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

このように、特に男女差があると思われた性格特性であったが、実際にはそれほど大きな差が見られなかった。特に、中学生について、女子のほうが自分を活発だと考え、自分を反抗的だと考える傾向が見られることなどは、教員から見た際に「女子が元気」という近年よく言われる現状を裏付けている可能性がある。

「勝ち負け」については、男子の方がこだわり、「グループ行動」については女子のほうがあてはまるなど、従来からいわれている性差がそのまま出ている項目もあるが、「几帳面だ(きちんとしている)」「人のいうことを素直にきく」といったどちらかといえば女性に対して求められていると考えられてきた項目では、ほとんど男女差がないことも注目すべきだろう。

5.2. 自分自身について (問12)

他者との関係において、男性が独立的であるのに対して女性は他者と親和的であるといった、性別による差が指摘されている。また、これまでの学校におけるジェンダー研究から、男子のほうがクラスでリーダーシップを発揮し、女子は従属的であることが多いといった教室の内部でのリーダーシップの差が指摘されてきた。

問12では、これらの研究成果を踏まえて、児童・生徒がクラス内での自分の位置や友人・

教員との関係についての自己イメージを提示し、あてはまるものに をしてもらった。

5.2.1. クラス内での相対的位置について（問 12 ～ ）

問 12 ～ では、学級内での地位の源泉になりそうだと考えられる「人気」、「勉強」、「スポーツ」、「リーダーシップ」の4項目についての自己イメージに関する項目について、「あてまる」ものに をつけてもらった。

【図表 -5-8】クラス内での相対的位置（男女・学年別％）

(%)

	小4				小6				中2			
	女子	男子	合計	2	女子	男子	合計	2	女子	男子	合計	2
	437人	468人	905人		453人	440人	893人		415人	468人	883人	
クラスで人気があるほうだ	13.3	19.0	16.2	*	8.2	11.4	9.7	n.s.	3.6	10.3	7.1	***
クラスで勉強ができるほうだ	23.3	24.8	24.1	n.s.	14.8	23.2	18.9	**	10.4	14.1	12.3	n.s.
クラスでスポーツができるほうだ	25.4	49.4	37.8	***	21.4	37.0	29.1	***	16.9	28.8	23.2	***
クラスでリーダーになることが多い	16.2	14.7	15.5	n.s.	15.0	12.3	13.7	n.s.	8.9	9.2	9.1	n.s.

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

【図表 -5-9】クラス内での相対的位置（地域別％）

(%)

	福島	会津	国分寺	相模原	合計	2
	715人	620人	749人	609人	2693人	
クラスで人気があるほうだ	8.7	11.3	12.3	12.2	11.1	n.s.
クラスで勉強ができるほうだ	16.5	16.0	22.6	18.4	18.5	**
クラスでスポーツができるほうだ	29.7	31.6	30.7	28.2	30.1	n.s.
クラスでリーダーになることが多い	12.7	11.1	13.5	13.5	12.7	n.s.

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

クラスで人気があるほうだ

11.1%の児童・生徒が「あてはまる」と回答しており、クラス内で人気者であるとい自己認識を持つ生徒は1割程度とかなり少ないことがわかる。

この項目は、男女差が大きく、男子では13.6%が「あてはまる」のに対して、女子では8.4%となっており、男子のほうが、人気があると自己評価する傾向がみられる。また、小

4では17.62%、小6では9.7%、中2では7.1%と学年が進むにしたがって、自分が人気があるとは考えなくなる傾向がみられる。この学年の傾向は男女とも共通するため、特に中2女子では「あてはまる」と考える生徒が3.6%ときわめて少なくなっていた。

クラスで勉強ができるほうだ

「あてはまる」と回答した児童・生徒の比率は18.5%と、勉強が出来るとは思っている児童・生徒はあまり多くない。

地域別にみると、「あてはまる」と回答した児童・生徒は会津で14.9%とやや低く、国分寺で22.6%とやや高くなっていた。

また、「あてはまる」と答えた児童・生徒は男子では20.7%、女子では16.2%と、男子のほうが勉強に自信を持っている傾向がみられる。学年で見ると、小4では24.1%が「あてはまる」と答えているが、小6になると18.8%、中2になると12.3%と、学年が進むにつれて、勉強に自信を持つ生徒が減少する。どの学年でも、男子のほうが「あてはまる」と回答する比率が高いが、小4ではその差はほとんどないのに対し、小6では男子23.2%に対し、女子14.8%とその差がかなり広くなり、中2になると女子の10.4%しか「あてはまる」と回答しない。勉強に関する自信について、学年とともに男女差が拡大する点については、注意が必要であろう。

クラスでスポーツができるほうだ

30.1%と、約3割の生徒が「あてはまる」と答えており、勉強にくらべて、スポーツに対する自信を持つ生徒のほうが多いことがわかる。

この項目は男女差が大きく、男子では38.4%が「あてはまる」と回答しているのに対して、女子では21.3%しか「あてはまる」と回答していない。また、小4では37.8%、小6では29.1%、中2では23.2%と、学年が進むにつれて「あてはまる」と回答する比率が低下する。特に小4男子では49.4%と、ほぼ半数の児童が「あてはまる」と回答しているが、小6では37.0%、中2になると28.8%とかなり大幅に低下する。

クラスでリーダーになることが多い

12.7%が「あてはまる」と回答しており、リーダーシップについても1割程度が肯定的な自己評価を持っていることがわかる。

設問を作成した当初は、リーダーになるのは男子が多いだらうと考えていたのだが、実際に回答の分布をみると、男女差はほとんどなく、学年で見ると、小4で15.5%、小6で13.7%、中2で9.1%と、学年が進むにつれて、「あてはまる」と回答する割合が下がり、リーダーシップの面での自己評価が下がる傾向が見られる。

これらの結果から、クラス内の勢力を決めると考えられる、学業成績・スポーツ・人気といった要素については、女子のほうが低い自己評価をすること、また学年があがるにつれて自己評価が低下する傾向を読み取ることができる。しかし、クラス内のリーダーシップについては、男女差がほとんどなく、これまで言われてきたほどには公的なリーダーシップの発揮の機会が男子に偏ってはいないようである。

5.2.2. 友達・先生との関係（問 12 ～）

問 12 以降では、友人との関係についての自己評価についての項目について、あてはまるものに つけてもらった。

【図表 -5-10】クラス内での相対的位置（男女・学年別％）

(%)

	小4				小6				中2			
	女子	男子	合計	2	女子	男子	合計	2	女子	男子	合計	2
	437人	468人	905人		453人	440人	893人		415人	468人	883人	
友達に自分の気持ちをはっきり言える	39.8	33.1	36.4	*	45.3	31.8	38.6	***	47.7	35.5	41.2	***
友達が自分の事をどう思っているか気になる	67.7	51.5	59.3	***	72.0	40.9	56.7	***	66.0	44.9	54.8	***
よくいたずらをする	16.5	31.6	24.3	***	22.5	30.9	26.7	**	23.1	27.8	25.6	n.s.
友達とけんかをする	14.4	25.4	20.1	***	11.9	15.5	13.7	n.s.	6.7	6.0	6.3	n.s.
先生の言うことを聞かない事が多い	4.6	14.5	9.7	***	8.8	17.5	13.1	***	11.1	9.6	10.3	n.s.
当てはまるものはない	8.9	9.0	9.0	n.s.	7.1	12.7	9.9	**	8.4	19.4	14.3	***

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

【図表 -5-11】クラス内での相対的位置（地域別％）

(%)

	福島 715人	会津 620人	国分寺 749人	相模原 609人	合計 2693人	2
友達に自分の気持ちを はっきり言える	38.5	36.9	39.9	38.9	38.6	n.s.
友達が自分の事をどう思っ ているか気になる	56.9	58.9	56.3	54.8	56.7	n.s.
よくいたずらをする	21.4	22.4	27.5	30.7	25.4	***
友達とけんか する	11.5	14.5	13.2	14.8	13.4	n.s.
先生の言うこと を聞かない事 が多い	9.0	6.8	15.0	13.0	11.0	***
当てはまるもの はない	10.3	11.0	10.5	12.3	11.0	n.s.

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

友だちに自分の気持ちをはっきり言える

38.6%の児童・生徒が「あてはまる」と回答しており、4割程度が友人に自分の気持ちをはっきりと言えているようである。

性別にみると、女子では44.2%、男子は33.5%と、女子の方が自分の気持ちをはっきり言えると考えている。この男女差は、どの学年でも共通しているが、小6では男子33.1%、女子39.8%と、その差はそれほど大きくないのに、小6では男子31.8%、女子45.3%と差が拡大し、学年がすすむにつれて、女子の方が自分の気持ちをはっきり表現できると考えるようになる。この傾向は中2でもみられ、男子35.5%、女子47.7%であった。

友だちが自分のことをどう思っているか気になる

56.7%の児童生徒が「あてはまる」と回答しており、半数以上である6割近くが友人の視線を気にしているようである。

男子では半数未満の45.8%が「あてはまる」と回答しているのに対して、女子では68.7%と7割近くが「あてはまる」と回答しており、女子のほうがより友人を気にしている様子がうかがえる。この傾向はどの学年にも共通している。

よくいたずらをする

25.4%の児童・生徒が「あてはまる」と回答しており、4分の1程度が自分はよくいたずらをすると考えているようである。

福島市では21.1%とやや少なく、相模原で30.7%とやや多くなっている。

性別にみると、男子では30.1%、女子では20.7%と、男子のほうが、自分はよくいたず

らをすると考えている傾向がみられる。学年による差はほとんど見られないが、学年によって小4では男子31.6%、女子16.5%であったのが、小6では男子30.9%、女子22.5%に男女差が縮小し、中2では男子27.8%、女子23.1%と男女差がさらに縮小している。このことから、男子は学年がすすむにつれていたずらをしなくなるのに対し、女子はそれほど変わらないか、むしろいたずらをするようになるという傾向がみられる。いたずらの内容まではわからないが、男女で逆の傾向が見られる点は注目に値する。

友だちとよくけんかする

13.4%の児童・生徒が「あてはまる」と回答しており、けんかが多いと考える生徒は1割強である。男女別にみると、男子では15.6%、女子では11.1%と、男子のほうが自分をよくけんかすると考えているようである。学年がすすむにつれて「あてはまる」と回答する児童・生徒は減少するが、この傾向は男子に顕著で、小4男子では25.4%が「あてはまる」と回答していたのが、小6では5.5%、中2では6.0%へと減少する。

先生の言うことを聞かないことが多い

11.1%の児童・生徒が「あてはまる」と回答しており、自分は先生の言うことを聞かないという自己評価をしている児童・生徒は1割程度である。

地域別の差があり、福島では7.6%、会津・猪苗代では9.1%なのに対して、国分寺市で15.0%、相模原でも13.0%と、東京近郊で、「あてはまる」と回答する児童・生徒がやや多くなっていた。

男女別では、男子が13.8%、女子が8.1%と、男子のほうがやや多く、学年別にみると、小4では男子14.5%、女子4.6%と男子のほうが先生の言うことを聞かないという傾向が見られるが、小6になると男子17.5%、女子8.8%と女子の比率が上昇し、中2になると男子9.6%、女子11.1%と女子のほうが男子よりも先生の言うことを聞かないという傾向が見られる。

あてはまるものはない

「あてはまるものはない」と回答したものは11.0%でした。男子は13.7%、女子は8.1%と、男子のほうがやや多くなっている。特に男子では、小4では9.0%なのが、小6では12.7%、中2では19.4%と、「当てはまるものはない」と回答するものが、学年が進むにつれて多くなっている。女子ではこのような傾向はほとんど見られない。

これらの結果から、女子のほうが友人関係において、はっきり意思表示ができる反面、友人からの評価を気にする傾向が強いことがわかる。

また、いたずら、けんかといったトラブルは、男子生徒に多いかと考えられてきたが、

男子では学年とともに減少するのに対して、女子では学年による減少がほとんど見られないため、中2の時点ではむしろ女子のほうがいたずら、けんかが多くなるといった傾向がある。また、先生への反抗といった問題も同様で、女子のほうが、学年が進むにつれて「いうことを聞かない」者が増え、反抗的な態度をとることが多くなる傾向が見られた。問11とあわせて、中学生女子では、男子よりもむしろ反抗的な態度をとるものが増えることが示唆される。

5.3. 将来のイメージ（問13）

進学や職業への願望は、その後の進路や職業に強い影響を及ぼす。また、この願望の差は、親や教員、友人といった周囲の性別にもとづく期待によって形成されると考えられている。

問13では、自分の将来について、将来のイメージをいくつか提示し、自分が将来どのようになりたいかをたずね、あてはまるものを選んでもらった。

【図表 -5-12】将来の願望（男女・学年別％）

	(%)											
	小4				小6				中2			
	女子 437人	男子 468人	合計 905人	2	女子 453人	男子 440人	合計 893人	2	女子 415人	男子 468人	合計 883人	2
勉強ができるようになりたい	58.1	45.7	51.7	***	49.9	41.6	45.8	**	53.7	50.0	51.8	n.s.
有名な高校に入りたい	37.1	37.6	37.3	n.s.	20.3	28.0	24.1	**	17.3	22.4	20.0	*
大学に入って勉強したい	39.8	29.3	34.4	**	31.3	27.3	29.3	n.s.	33.0	22.2	27.3	***
有名な会社に入りたい	13.5	19.4	16.6	*	8.4	15.2	11.8	**	8.7	15.8	12.5	**
人のやくにたつ仕事がしたい	53.8	41.7	47.5	***	45.7	34.1	40.0	***	45.3	37.0	40.9	**
好きなことをいかした仕事がしたい	59.0	51.7	55.2	*	76.4	58.2	67.4	***	81.4	68.8	74.7	***
有名になりたい	22.9	36.3	29.8	***	18.8	21.1	19.9	n.s.	14.5	17.9	16.3	n.s.
えらくなりたい	13.5	18.8	16.2	*	6.8	10.9	8.8	*	6.5	13.2	10.1	***
あてはまるものはない	6.6	9.6	8.2	n.s.	4.4	9.1	6.7	**	1.7	7.5	4.8	***

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

勉強ができるようになりたい

「あてはまる」と回答した児童・生徒は49.8%と約半数が「勉強ができるようになりたい」と考えている。地域別に見ると、福島で、53.3%とやや高い傾向がみられた。

男女別にみると、男子では45.9%、女子では53.9%と、女子の方が勉強ができるようになりたいと考えている傾向がみられる。この男女差は学年が進むにつれて縮小する傾向があり、小4では男子は45.7%、女子は58.1%となっていたが、小6では男子41.6%、女子49.9%となり、中2では男子50.0%、女子53.7%となっており、中学生になると、男

子ども半数が勉強が出来るようになりたいと考えるようになっている。

有名な高校に入りたい

27.2%の児童・生徒が「あてはまる」と回答しており、3割弱が有名な高校への進学を希望している。男女別にみると、男子では29.3%、女子では25.0%であった。学年別にみると、小4では37.3%、小6では24.1%、中2では20.0%と、学年が進むにつれて有名な高校を希望するものが減少する傾向がみられる。また、小4では男子37.6%、女子37.1%と男女差がほとんどないが、小6では男子28.0%、女子20.3%と差が開き、中2では男子22.4%、女子17.3%と、有名な高校に対する女子の希望が急速に低下することがわかる。

大学に入って勉強したい

30.4%の児童生徒が「あてはまる」と回答しており、大学への進学希望は3割程度と実際の進学率と比べても少ない。国分寺では35.2%とやや多く、会津では24.0%とやや少ない傾向がみられる。

男女別にみると、「あてはまる」と回答するものが男子26.2%、女子34.7%となっており、男子では大学進学を希望するものが4分の1程度にとどまっている。また、どの学年をみても、女子のほうが大学希望率が高い傾向がみられる。さらに、学年でみると、「あてはまる」と回答するものが小4では34.4%、小6では29.3%、中2では27.3%となっており、学年が進むにつれて、大学志望率が低下する点は注目に値する。

有名な会社に入りたい

13.6%の児童・生徒が「あてはまる」と回答しており、有名な会社への入社を希望するものは1割強となっている。

男子では16.8%、女子では10.2%と、男子のほうが「あてはまる」と回答する比率が高く、またどの学年でもこの傾向は共通している。学年別では、小4では16.6%、小6では11.8%、中2では12.5%と小4の段階で「あてはまる」と回答する児童が多くみられた。

人のやくにたつ仕事がしたい

42.8%の児童・生徒が「あてはまる」と回答しており、4割強の児童・生徒が人の役に立つ仕事がしたいと考えている。

「あてはまる」と回答したものは、男子では37.6%だが、女子は48.3%とほぼ半数の児童・生徒が「人の役に立つ仕事をしたい」と考える傾向がある。

学年別には、小4では47.5%、小6では40.0%、中2では40.9%と、小4でやや高くなる傾向がみられる。この傾向は男女とも共通しており特に小4女子は過半数の53.8%が「あてはまる」と回答していた。

好きなことをいかした仕事がしたい

65.7%の児童・生徒が「あてはまる」と回答しており、3分の2近くの児童・生徒が好きなことをいかした仕事に就くことを希望している。

好きなことをいかした仕事をしたいと考えるものは、女子に多く、男子では59.6%、女子では72.2%が「あてはまる」と回答している。学年別に見ると、小4で55.2%、小6で58.2%、中2で74.7%と、学年が進むにつれて、「好きなことをいかした仕事がしたい」と考える割合が高まる。この傾向は男女とも同じで、特に中2女子では8割を超える81.4%が「あてはまる」と回答していた

有名になりたい

22.1%の児童・生徒が「あてはまる」と回答しており、有名になりたいと考える生徒は2割程度である。

男女別では、男子25.3%、女子18.8%と男子のほうが「有名になりたい」と考える傾向が強い。また、学年別にみると、小4では29.8%、小6では18.8%、中2では16.3%と、学年が進むにつれて、低下していく傾向がみられる。

えらくなりたい

11.8%の児童・生徒が「あてはまる」と回答しており、えらくなりたいと考えるものは1割程度である。

男女別では、男子は14.5%、女子は9.0%と、男子のほうが「えらくなりたい」と考える傾向が強く、学年別にみると小4では16.2%、小6では8.8%、中2では10.1%と小4でやや高い傾向がみられる。

あてはまるものはない

上記 ~ に「あてはまるものはない」と回答した児童・生徒は6.6%だった。

男女別にみると男子8.7%、女子4.3%と、男子のほうがあてはまるものはないと回答するものが多かった。また、学年別にみると、小4で8.2%、小6で6.8%、中2で4.7%と学年があがるにつれて、「あてはまらない」と答えるものは減少する。

将来のイメージについては、勉強や大学進学については女子のほうが強い願望をもっているが、「有名な高校」についてのみ男子のほうが願望が強くなる傾向が見られる。これは、高校に限らず、働く先としての企業や単に有名人になりたいといった項目についても同様の傾向がみられる。男子のほうがより「有名」という言葉に価値を置いた進路選択を行う傾向があると考えられる。

一方、女子は、人の役に立つ仕事、好きな仕事といった仕事の内容を希望する傾向が男子より強くなっており、より仕事の内容や関係性に対して価値をおいた就業選択を行う傾向があると考えられる。

また、男女とも「好きなことを生かした仕事をしたい」以外の項目では、学年があがるにつれて「あてはまる」と回答するものが減少しており、アスピレーションが低下していくことがわかる。

5.4. 将来就きたい職業（問 14）と職業展望（中学生のみ問 15）

5.3. で取り上げた将来の願望に加えて、具体的に、将来就きたい仕事についてたずねた。また、中学生については、その希望する仕事に就けると思うかどうかの見込みについてもたずねた

将来尽きたい仕事につけると思うか(中学生のみ)（図表 -5-13）

現実的に、つきたい仕事に就けると思うかどうかをたずねると、「きつとつけると思う」が 13.8%、「がんばればつけると思う」が 66.0%、「つくのはむずかしいと思う」が 18.7%と 8 割程度の生徒は、就きたい仕事に現実的に就ける可能性があると考えている。

女子で「がんばればつけると思う」と努力を条件とした可能性への回答が多くみられ、男子では「きつとつけると思う」「つくのは難しいと思う」がやや多い傾向がみられるが、統計的に有意な差ではない。

【図表 -5-13】 将来つきたい仕事につくことができると思うか（中学・男女別％）
（％）

		人数	きつとつける	がんばればつける	つくのはむずかしい	2
中学生	女子	327	13.8	68.8	17.4	n.s.
	男子	309	16.8	63.1	20.1	
合計		636	15.3	66.0	18.7	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

6. 家庭での児童・生徒

6.1. 家事手伝い（小学生問15、中学生問16）項目別

家庭での「いつもしている手伝い」を8項目に分けて聞き、あてはまるものすべてにつけてもらった。全体として手伝っている比率が多いものから順に、「食事の前に食器を並べる」「おふろのそうじ」（以上40%台）「部屋の掃除」「ごみ出し」（以上2つが30%台）「洗濯物をたたむ」「食器を洗う」「洗濯物を取り込む」（以上20%台後半で差はわずか）「食事の支度」（20.2%）の順だった。ほかに「その他の手伝い」をしていると答えた者が15%ほどいたが、内容が不明であるのでとりあえず分析から省く。「いつもしている手伝いはない（以下では「なし」と略記）はわずか11.4%で、およそ9割の者は何らかの手伝いをしているといえる。

家事を手伝う比率が男女でどう異なるかを項目別に見たのが図表 -6-1である。どの項目でも有意な男女差が見られたが、男子の方が高率に手伝っていたのは「おふろのそうじ」と「ごみ出し」の2項目であった。他の6項目では女子の方が高率に手伝っており、大体10%前後の差異があったが、なかでも「洗濯物をたたむ」では男子22.0%に対して女子は37.3%と15%も差異があった。

【図表 -6-1】家事を手伝う比率（男女別％）

（％）

	合計	食事 作る	食器を 並べる	食器を 洗う	洗濯物を とりこむ	洗濯物 たたむ	ごみだ し	部屋の 掃除	風呂 掃除	その他
男子	1377	16.0	43.0	24.5	24.8	22.0	38.6	36.3	46.5	13.7
女子	1305	24.6	54.6	33.7	30.6	37.3	28.3	43.1	41.5	16.9
合計	2682	20.2	48.6	29.0	27.6	29.5	33.6	39.6	44.1	15.3
2		***	***	n.s.	***	***	***	***	**	*

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

なお地域別に男女差を見ると、項目によっては差異が見られない地域もあるなど様相はかなり複雑である。10項目（家事を明示した8項目にその他、いつもしている手伝いはない）中、男女差があった項目数で比較すると最も男女差があったのが、会津では9項目で差異があり、最も少なかったのが相模原で5項目しか差がなかった。またすべての地域で男子の方が手伝う比率が高かったのは「ごみ出し」のみで、すべての地域で女子の方が手伝う比率が有意に高かったのは「食事の前に食器を並べる」「洗濯物をたたむ」の2項目、4地域中3地域で女子の方が手伝う比率が有意に高かったのは「食事の支度」「食器を洗う」であった。

次に学年別に見たのが図表 -6-2である。その他を含めた家事項目9項目のうち6項目で、手伝いをしている比率はおおむね学年と共に減少する。反対に学年と共に上昇するの

は「部屋のそうじ」と「なし」である。「洗濯物を取りこむ」は統計的な有意差の有無の境界線上にあるが($p=.051$)、学年が高い方が低い傾向にある。すなわち、子供たちの手伝いは年齢と共に能力が上昇するはずであるにもかかわらず、食事作りのような技術を要する手伝いでさえも学年が進むにつれて手伝わなくなると予測される。これは横断的分析からの推論であって、現在4年の子供たちの将来はわからないが、中学生が受験や部活で忙しいという状況が続く限りはこの傾向は続くと思われる。

【図表 -6-2】家事を手伝う比率(学年別%) (%)

	合計	食事 作る	食器 並べる	食器 洗う	洗濯物取 り込む	洗濯物 たたむ	ごみ だし	部屋の 掃除	お風呂 掃除	そのほ か
小4	911	27.4	49.5	32.7	25.1	35.6	40.6	37.1	48.3	21.5
小6	896	17.4	51.8	26.8	27.5	29.9	35.0	36.7	44.0	14.5
中2	885	15.6	44.1	27.5	30.3	22.8	25.1	45.3	39.9	9.6
合計	2692	20.2	48.6	29.0	27.6	29.5	33.7	39.7	44.1	15.3
2		***	**	*	n.s.	***	***	***	**	***

* $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$

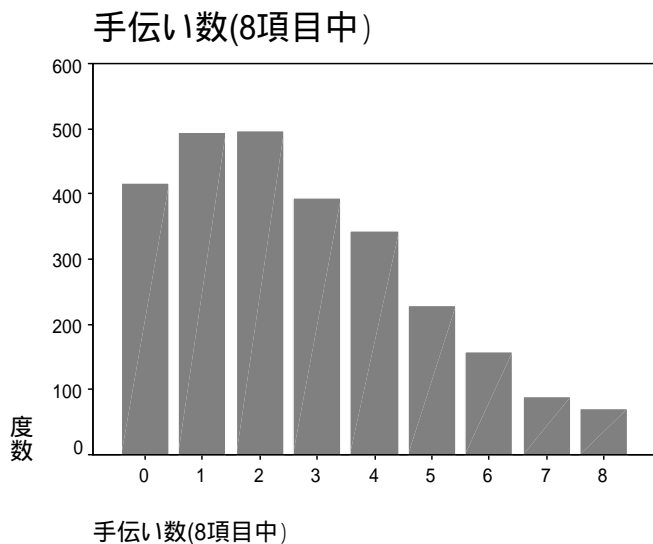
6.2. 家事手伝い数の分析

家事についての質問をばらばらに見ていると、家事手伝いの総体がわかりにくい。そこで、何らかの合計値を出したいと考え、上の9つの項目〔その他を含む〕を因子分析にかけたところ、男女合計でも、男子、女子それぞれに分析しても「その他」1項目を除く8項目が1つの因子に集まった。「その他」の内容がはっきりしないところから、これを分析から除外することにし、8項目のうち幾つの家事を行っているかを「家事手伝い数」としてとらえ、よく手伝うかどうかをみていくことにした。無論、項目によって比較的長い時間がかかる手伝いと短時間でできる手伝いがあるから、単純に項目数を加算したものが家事の総体とは必ずしもいえないが、ある程度家事の総量の目安としてみるができるだろう。これを尺度として利用するためにクロンバックの係数を算出したところ、男女合計0.6946、男子のみ0.7087、女子のみ0.6805で、ほぼ0.7に近いところから、これを尺度として利用することにする。その分布は図 -6-3 に示すとおりで、手伝い数が2個までが多いようである。手伝い数2個までを「普通以下」、3個から4個を「やや多い」、5個以上8個までを「多い」として手伝い数を3段階に分けて、男女別、地域別、学年別に差異をみたのが図表 -6-4～図表 -6-6 である。

いずれもカイ二乗検定で有意差があり、男子のほうが女性より家事手伝いが少ない者が高率である。また学年別で見ると高学年のほうが手伝いが少ない者が多い。地域別には会津が少なく、相模原が多いといえる。福島市と国分寺は分布が非常によく似ていることも

わかる。

【図表 -6-3】家事手伝い数の度数分布



【図表 -6-4】手伝いの頻度（男女別％）

(%)

	合計(人数)	手伝い数3区分			2
		普通	やや多い	多い	
男子	100(1377)	56.7	25.6	17.6	***
女子	100(1305)	47.7	29.2	23.1	
合計	100(2682)	52.3	27.4	20.3	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

【図表 -6-5】手伝いの頻度（地域別％）

(%)

	合計	手伝い数3区分			2
		普通	やや多い	多い	
福島市	100(715)	51.5	28.7	19.9	***
会津	100(620)	60.6	25.8	13.5	
国分寺	100(749)	50.1	29.1	20.8	
相模原	100(609)	47.6	25.1	27.3	
合計	100(2693)	52.3	27.3	20.3	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

【図表 -6-6】手伝いの頻度（学年別％）

（％）

	合計(人数)	手伝い数 3 区分			2
		普通	やや多い	多い	
小4	100(911)	49.4	26.1	24.5	***
小6	100(896)	50.4	30.1	19.4	
中2	100(885)	57.2	25.8	17.1	
合計	100(2692)	52.3	27.3	20.4	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

6.3. 家庭の雰囲気（小学生問 16、中学生問 17）項目別

以下では子供たちに対して教育熱心か、ということと関連すると考えられる家庭の雰囲気について聞いた5問を扱う。その5問とは「家の人はテレビでニュースを見る」「家の人と博物館や美術館に行く」「家族で旅行に行く」「家の人に勉強を見てもらう」「小さいとき、家の人に本を読んでもらった」であり、回答は「よくある」「ときどきある」「ほとんどない」のうち、あてはまるものにをつけてもらった。

図表 -6-7～図表 -6-11 に男女別の結果を示した。全体として最も「よくある」が高率だったのは「家の人はテレビでニュースを見る」で、75～81% が「よくある」とし、「ときどきある」を加えると9割を越す。すなわち、この変数は何かを説明するためにあまり使えないと思われる。ついで「小さいとき、家の人に本を読んでもらった」は「よくある」が5割を越し、「ときどきある」が3割近い。両者を加えると8割前後だからこれもかなり多くの子どもが体験していることになる。ただし、地域差があり、国分寺では「よくある」だけで6割を越すのに、会津では5割未満である。 ついで「家の人に勉強を見てもらう」は「よくある」が25%、「ときどきある」が4割ほどで、両者を足すと6割を越す。

「家族で旅行に行く」「家の人と博物館や美術館に行く」は「ときどきある」の比率が大きくなるような設問であろう。家族旅行は45%ほど、博物館などは30%前後が「ときどきある」と回答している。家族旅行のほうは「よくある」の比率も多く、特に国分寺で3割を越す。これらはいずれも統計的に有意な差を示した。一方、子どもの性別による差異は4項目で見られず、「家の人に勉強を見てもらう」と「小さいとき、家の人に本を読んでもらった」のみ女子の比率が有意に高かった。

【図表 -2-7】家の人はテレビでニュースを見るか（男女別％）（％）

	合計	よくある	ときどきある	ほとんどない	2
男子	100(1346)	78.5	18.3	3.3	ns
女子	100(1287)	78.9	18.9	2.2	
合計	100(2633)	78.7	18.6	2.7	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

【図表 -6-8】家の人と博物館や美術館に行く（男女別％）（％）

	合計	よくある	ときどきある	ほとんどない	2
男子	100(1346)	5.6	28.7	65.7	ns
女子	100(1287)	6.5	29.1	64.6	
合計	100(2633)	6.0	28.9	65.1	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

【図表 -6-9】家族で旅行に行く（男女別％）（％）

	合計	よくある	ときどきある	ほとんどない	2
男子	100(1346)	23.5	46.0	30.5	ns
女子	100(1287)	27.2	44.4	28.4	
合計	100(2633)	25.3	45.2	29.5	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

【図表 -6-10】家の人に勉強を見てもらう（男女別％）（％）

	合計	よくある	ときどきある	ほとんどない	2
男子	100(1346)	25.1	36.5	38.5	**
女子	100(1287)	26.9	41.4	31.6	
合計	100(2633)	26.0	38.9	35.1	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

【図表 -6-11】小さい時に家の人に本を読んでもらった（男女別％）（％）

	合計	よくある	ときどきある	ほとんどない	2
男子	100(1346)	45.7	31.9	22.4	***
女子	100(1287)	59.0	26.8	14.2	
合計	100(2633)	52.2	29.4	18.4	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

6.4. 女性の働き方（小学生問 17、中学生問 18）

「女の人が職業（仕事）を持って働くこと」について、以下に示される意見のうち、一番賛成できるものを一つ選んで をつけてもらった。

- 1、結婚しても子どもができて、職業（仕事）を続ける。
- 2、子どもができたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた、職業（仕事）をもつ
- 3、結婚しても子どもができるまでは職業（仕事）をもつ
- 4、結婚したら仕事をやめる
- 5、女性は一生職業（仕事）をもたない

男女別・学年別の結果を図表 -6-12 に示した。

【図表 -6-12】女性の働き方について（男女・学年別％） (％)

	学年	合計	結婚しても子どもができて、職業を続ける	子供ができたら仕事を辞め、大きくなったらまた職業をもつ	結婚しても、子供ができるまでは職業をもつ	結婚したら仕事をやめる	女性は一生職業をもたない	わからない	無回答	2
男子	小4	100(468)	27.6	19.2	10.5	6.2	1.9	31.6	3.0	***
	小6	100(440)	16.1	25.7	10.2	8.0	1.4	37.3	1.4	
	中2	100(468)	20.1	30.1	10.0	6.4	0.6	31.0	1.7	
	合計	100(1376)	21.4	25.0	10.2	6.8	1.3	33.2	2.0	
女子	小4	100(437)	28.6	30.2	15.3	5.5	0.7	18.1	1.6	***
	小6	100(453)	20.8	38.0	13.9	6.4	0.4	20.1	0.4	
	中2	100(415)	28.0	39.3	14.0	3.4		14.5	1.0	
	合計	100(1305)	25.7	35.8	14.4	5.1	0.4	17.6	1.0	
全体	合計	100(2682)	23.5	30.3	12.3	6.0	0.9	25.9	1.5	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

一番下の段の全体を見ると「子どもができたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた、職業（仕事）をもつ（以下「再就職」と略）」の比率が最も高率で 30.3%、ついで「わからない」25.9%、「結婚しても子どもができて、職業（仕事）を続ける」が 23.5% となっている。男女別に見ると有意差が示された。一番大きな違いが見られるのは「わからない」の回答が男子 33.2%、女子 17.6%のところであって、ついで「子どもができたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた、職業（仕事）をもつ（以下「再就職」と略）」が男子 25.1%、女子 35.8%である。

また学年別でも有意差があり、高学年ほど男女とも「再就職」の比率が高い。また「わからない」の比率は低学年ほど少ないかと予想したがそうでもなく、男女とも小6が最も高率である。いずれの学年でも男子の比率は3割以上、女子は14 - 20%と開きがある。

6.5. 父母の状況（小学生問 18、中学生問 19）

ここでは「あなたのお父さんやお母さんは、料理や洗濯などの家事以外に仕事をしていますか」と聞いて、父母それぞれに対して1、仕事をしている（会社やお店など） 2、していない 3、お父さん（お母さん）はいない から回答してもらった。

【図表 -6-13】父親の有職率（地域別％）（％）

	合計(人数)	仕事をしている	していない	お父さんはいない	2
福島市	100(637)	88.7	1.3	10.0	**
会津	100(584)	93.2	2.0	4.9	
国分寺	100(680)	91.3	1.6	7.1	
相模原	100(577)	94.5	0.8	4.6	
合計	100(2478)	91.8	1.4	6.8	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

父親については図表 -6-13 に示されるように有意な地域差が見られる。父親がいる場合の有職率は98%ほどでありあまり差異がないが、父親のいない比率が福島で10%をこえ、会津や相模原では4%台にとどまっているためと考えられる。

【図表 -6-14】母親の有職率（地域別％）（％）

	合計(人数)	仕事をしている	していない	お母さんはいない	2
福島市	100(637)	69.9	28.1	2.0	***
会津	100(584)	84.0	13.7	2.3	
国分寺	100(680)	64.1	34.6	1.2	
相模原	100(577)	63.2	35.4	1.3	
合計	100(2478)	70.1	28.2	1.7	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

母親については図表 -6-14 のように母親のいない比率はどの地域でも低い、有職率には地域で有意な差が見られ、会津がとくに高くなっている。また母親の有職率は図表 -6-15 のように子どもの学年によっても違いが見られ、学年が高い方が有職率が高くなっている。

【図表 -6-15】母親の有職率（学年別％）

（％）

	合計(人数)	仕事をしている	していない	お母さんはいない	2
小4	100(888)	64.8	34.3	0.9	***
小6	100(890)	69.8	28.5	1.7	
中2	100(875)	75.9	21.6	2.5	
合計	100(2653)	70.1	28.2	1.7	